

お知らせ:次回発信日は12月19日週報(予定)

Jミルクが2024年9月27日に公表した「需給見通し(※2024年8月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・10月の生乳需給実績について、生乳生産量は、前年同期比+1.4%と3カ月連続で上回った。地域別に見ると北海道では+3.4%と3カ月連続で前年超え、都府県は▲1.3%と4カ月連続で前年割れとなった。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から11月下旬まで4カ月連続で前年水準を上回っている。一方、都府県は6月中旬から11月下旬まで前年割れとなっているものの、減少率は縮小傾向で推移。このため、全国の受託乳量は9月下旬以降、前年水準を上回っている。10月の牛乳の生産量は、乳価改定から一巡した影響もあり+1.0%と2カ月連続で前年水準を上回った。一方、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料は低調でいずれも前年割れ。はっ酵乳は、年度明けから回復基調で推移し10月は+6.6%となった。このため、生乳の飲用等向は+0.5%増と約半年ぶりに前年水準を上回った。

・脱脂粉乳の10月の生産量は+10.4%と拡大幅は縮小したものの3カ月連続で前年超え。推定出回り量は、前年同月に比べて在庫低減対策数量の低下もあり▲15.2%と4カ月連続で前年割れとなった。単月での脱脂粉乳需給は供給量が需要量を下回り月末在庫量は47.5千ト(▲11.9%)と減少率は縮小したものの25週連続で前年水準を下回り、2か月連続で4万ト台となった。バター生産量は+16.4%で、推定出回り量は+10.6%。国家貿易による輸入売渡分(約0.8千ト)を考慮すると、在庫量は24.8千ト(+2.0%)と、2カ月連続で前年水準を上回った。

・牛乳類の11月の販売動向について、牛乳と加工乳は前年水準を上回った一方、成分調整牛乳と乳飲料は前年割れとなり牛乳類トータルでも前年割れとなった。直近(12/2週)の販売動向は、牛乳が前年比+0.4%と2週連続で前年水準を上回ったが、他の品目は前年割れとなり、牛乳類トータルは▲1.3%となった。

・はっ酵乳は、3品目すべてのカテゴリーが前年水準を上回った。3品目いずれも前年越えとなるのは5週連続。特に、大容量タイプは13週連続で前年水準を上回っている。

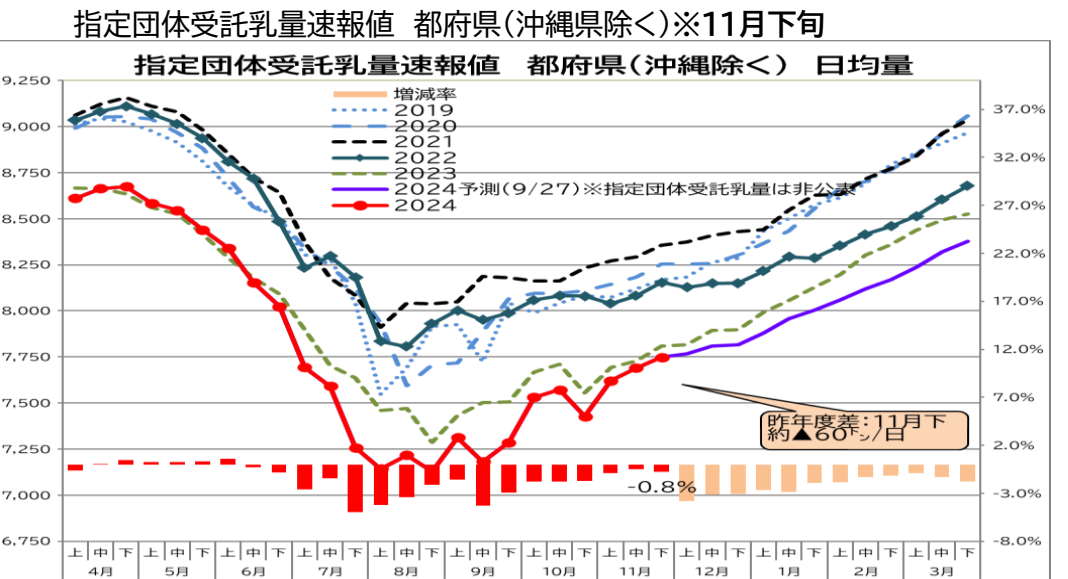
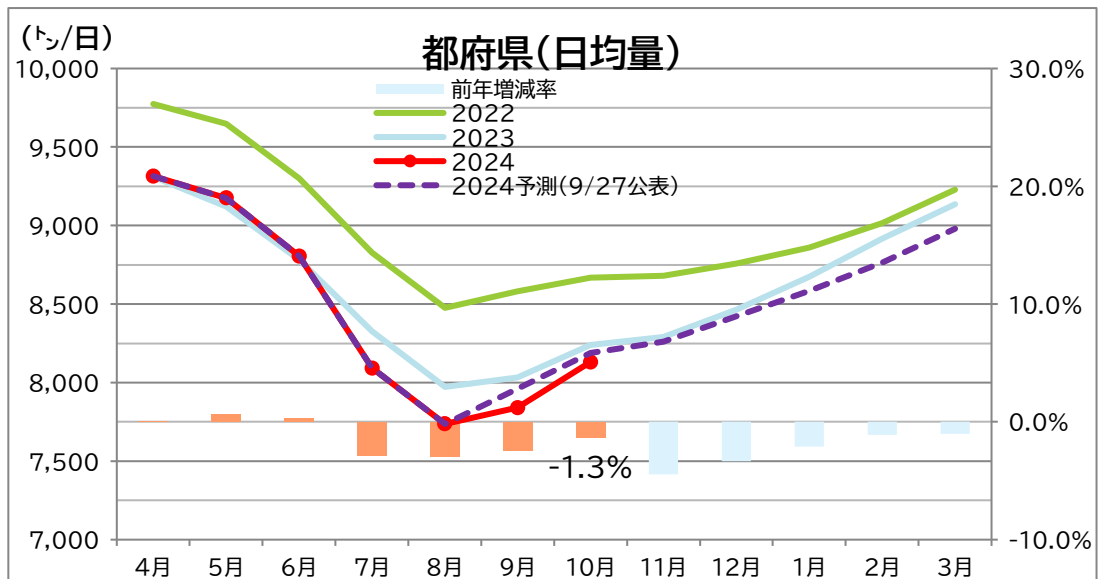
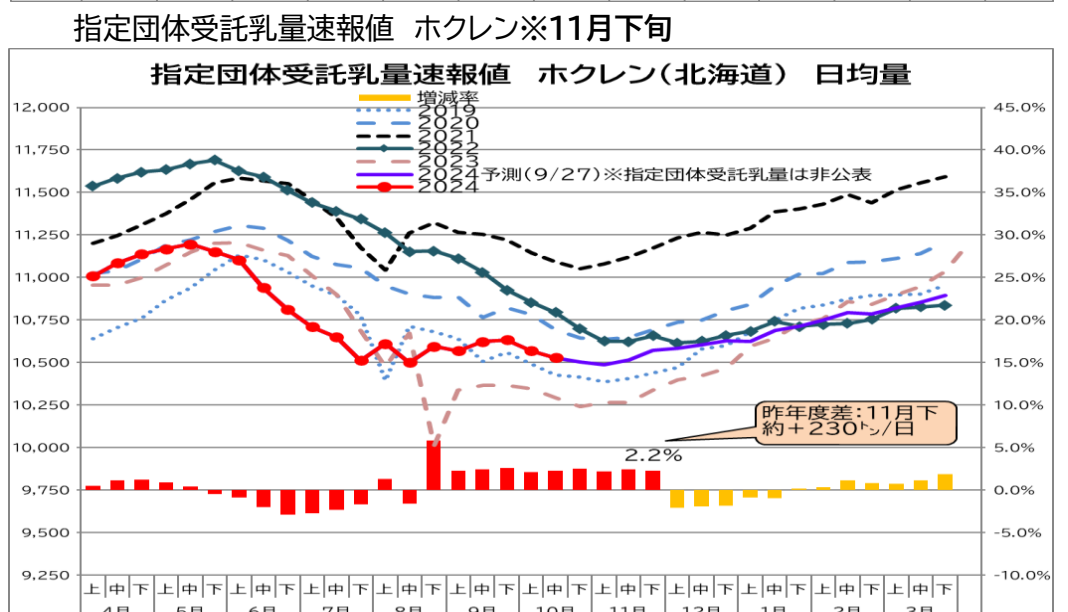
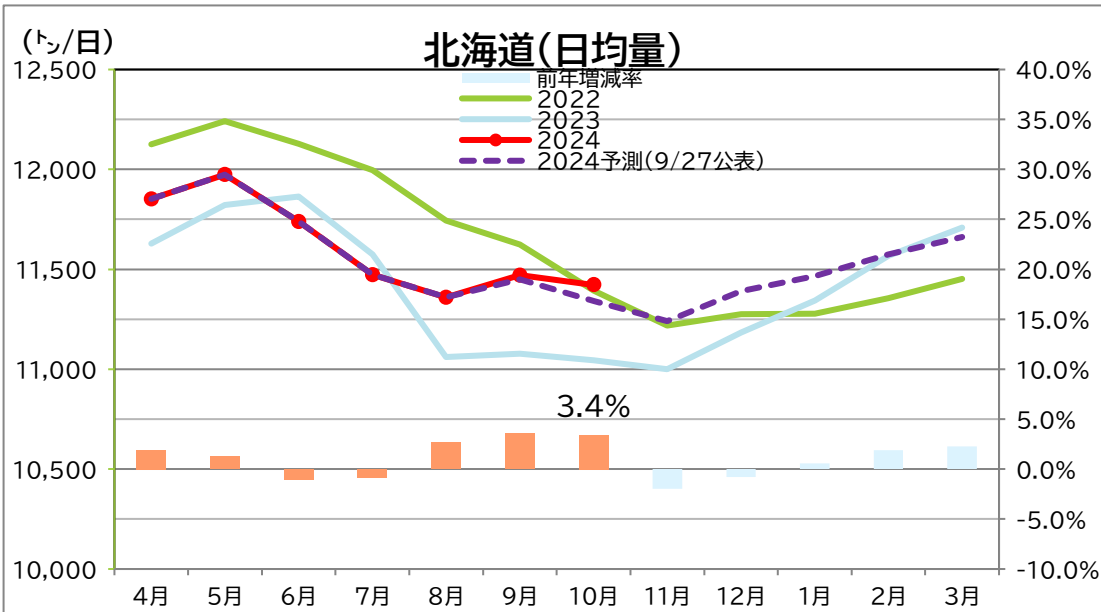
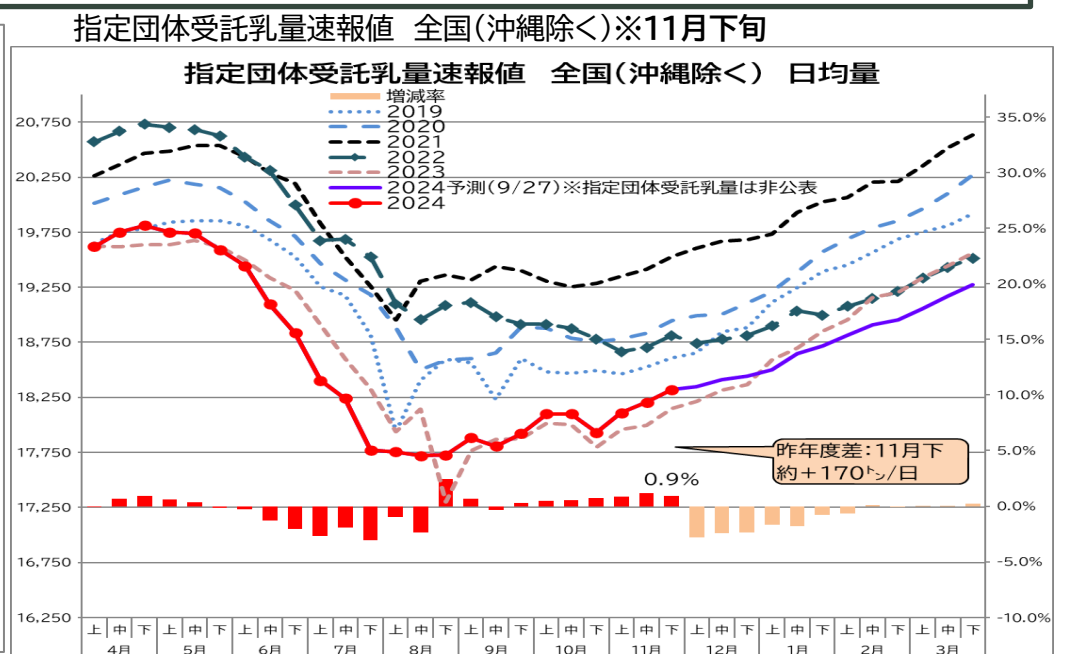
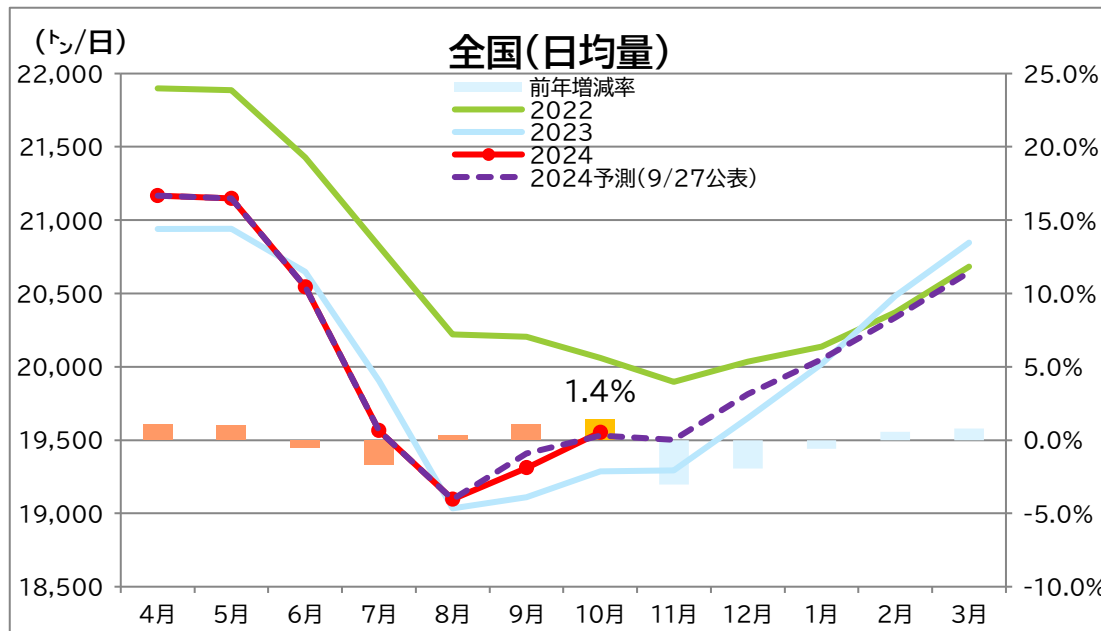
・家庭用バターの販売個数は低調に推移していたが、12/2週は4週ぶりに前年超えとなった。今後、バター・生クリームの最需要期ともなるクリスマスに向けて消費がどのように変化するか、動向を注視する必要がある。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳生産量は、全国606.1千ト(前年同月比101.4%)、北海道354.1千ト(同103.4%)、都府県252.1千ト(同98.7%)。

(2)10月に公表したJミルク予測値(全国605.4千ト、北海道351.6千ト、都府県253.8千ト)との比較は北海道が上振れした一方、都府県は下振れとなった。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が11月下旬(最新、以下同)で同100.9%、都府県(沖縄除く)が同99.2%、北海道は同102.2%となった。

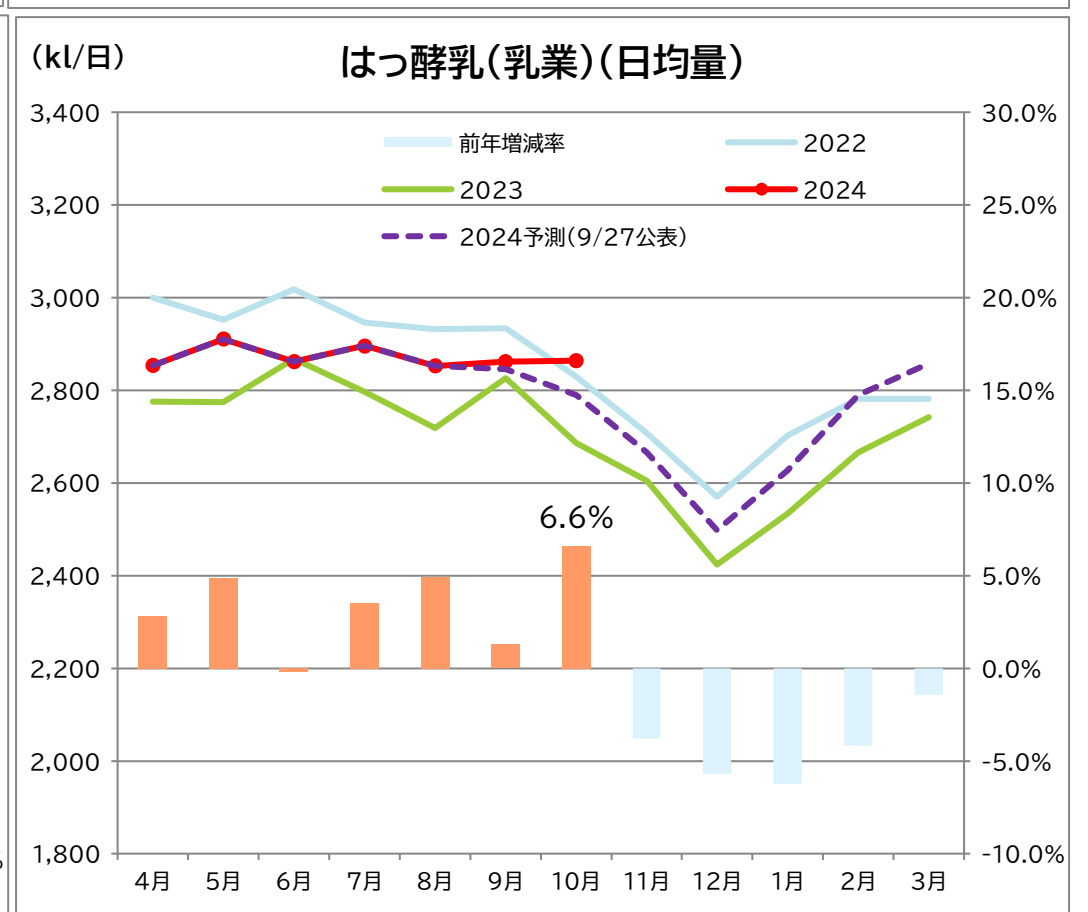
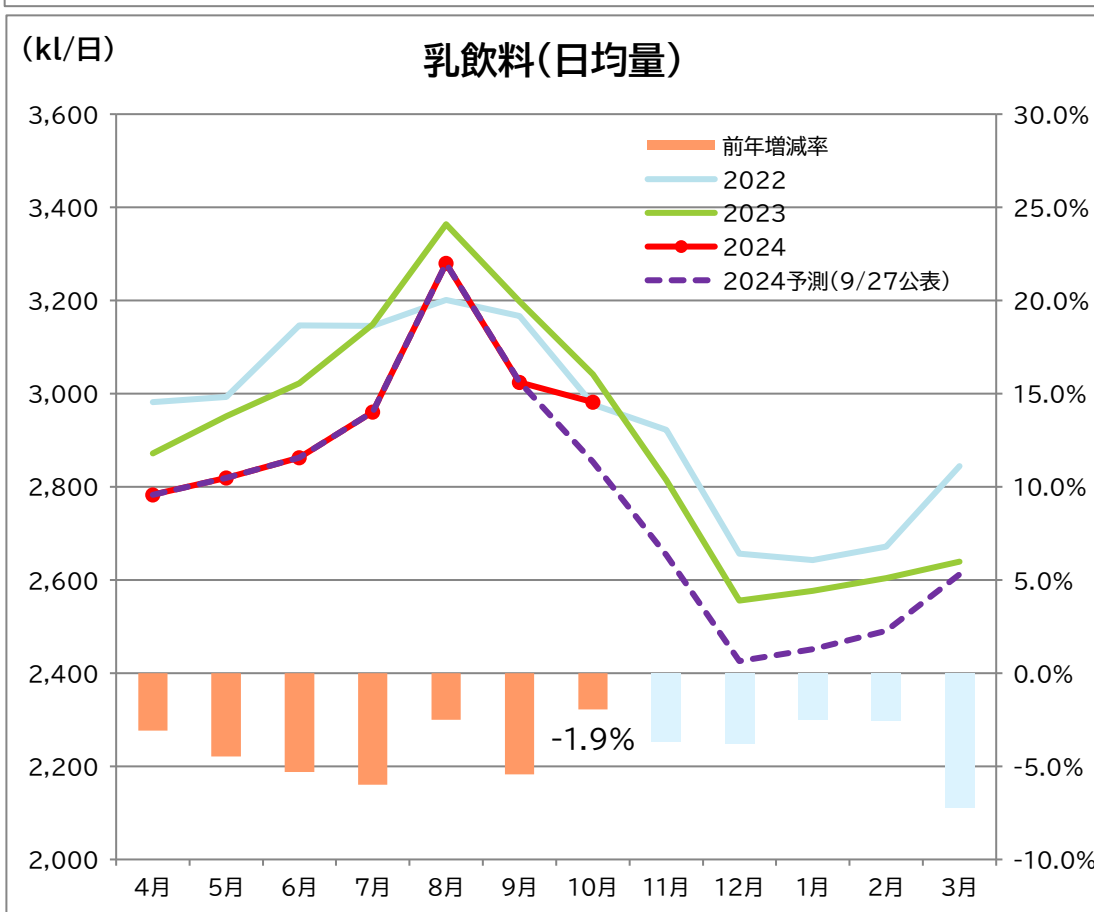
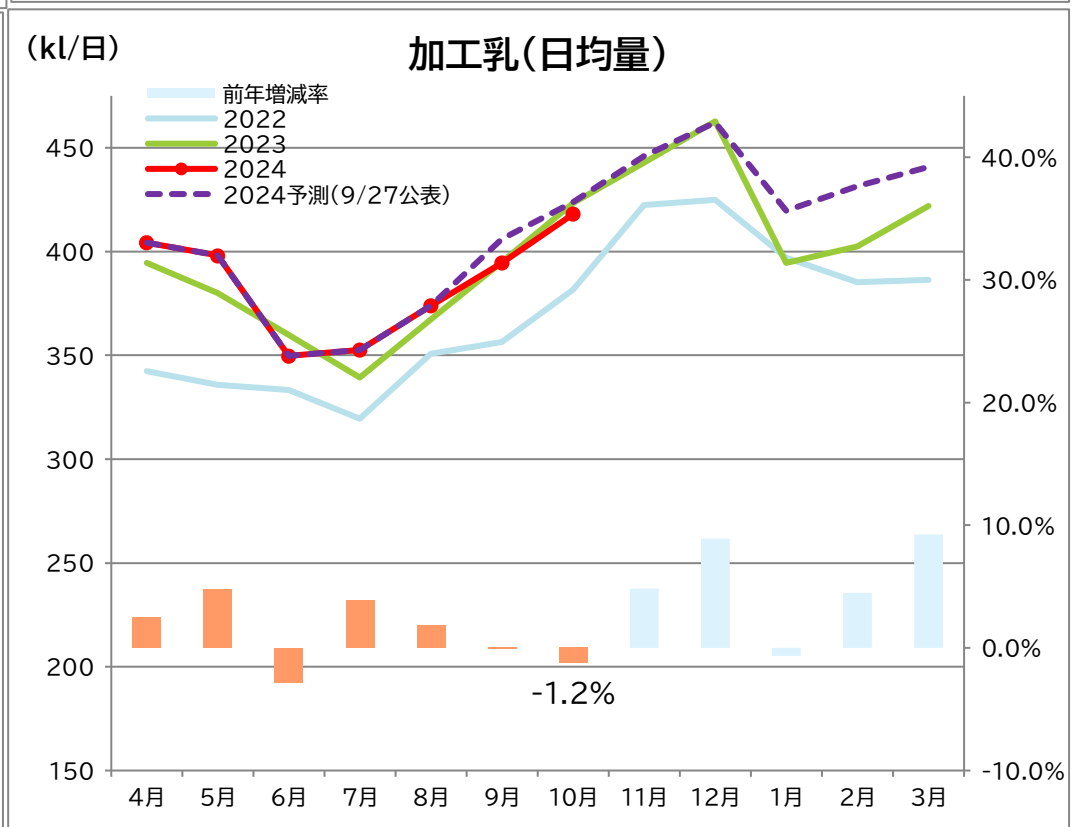
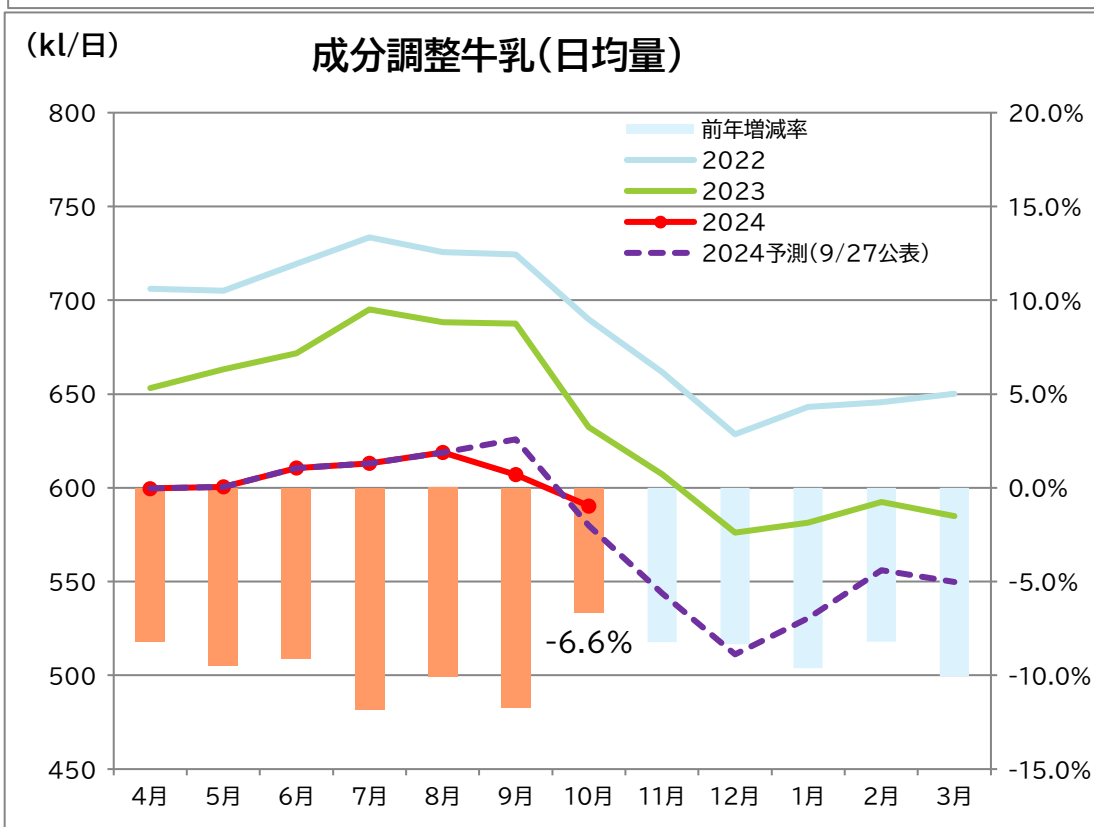
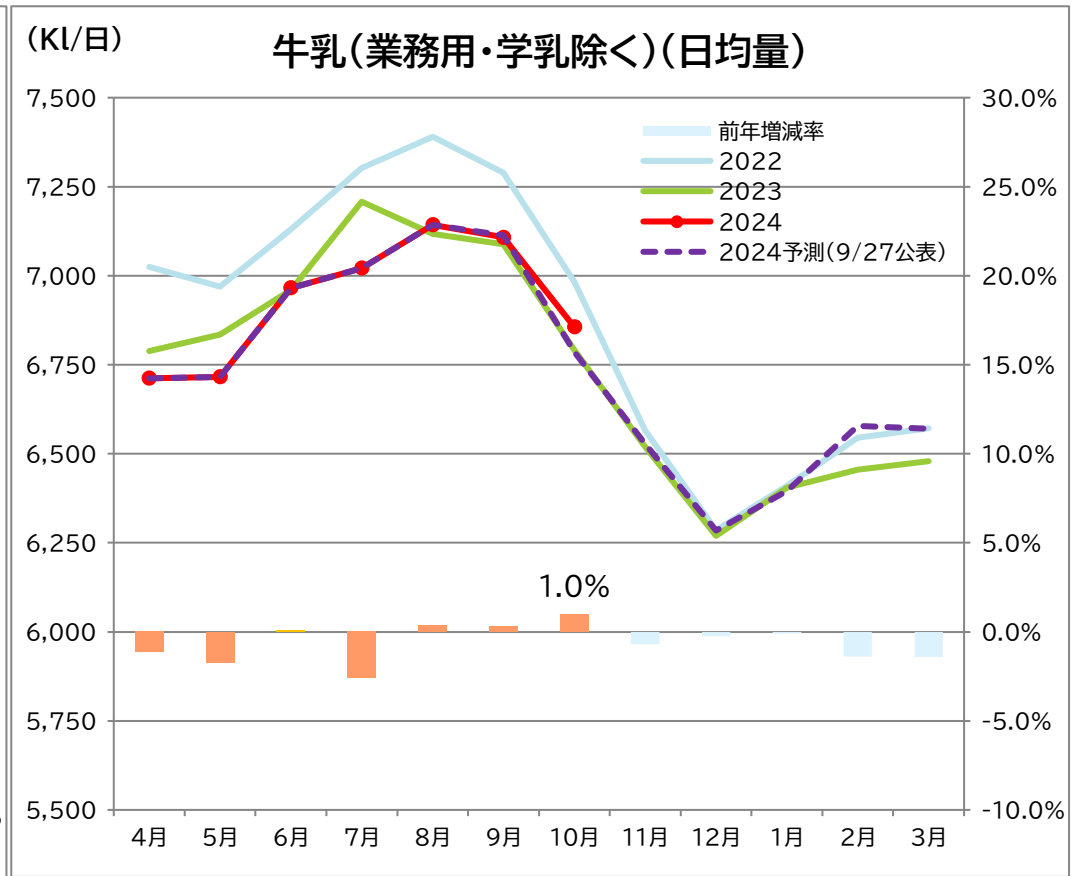
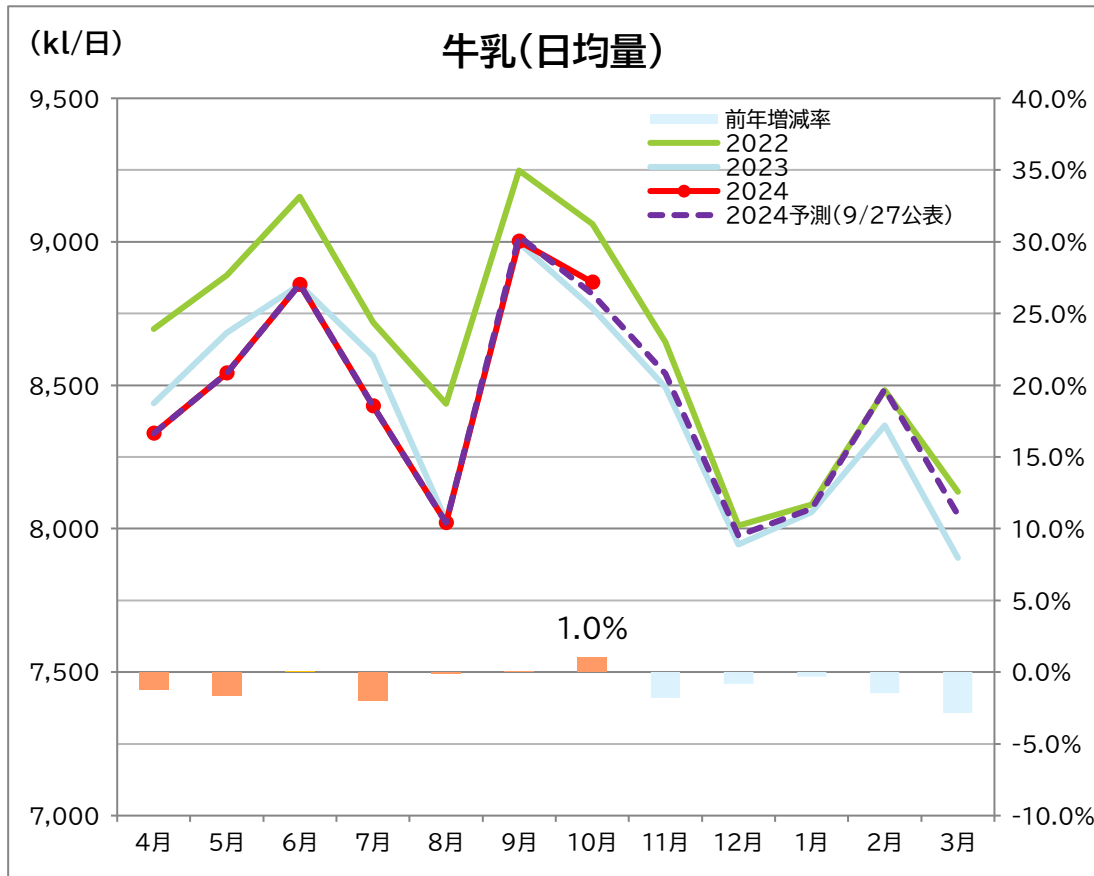


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の牛乳等生産量は、牛乳274.6千kl(前年同月比101.0%)、成分調整牛乳18.3千kl(同93.4%)、加工乳13.0千kl(同98.8%)、乳飲料92.4千kl(同98.1%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、398.3千kl(同99.9%)となり、23カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同101.0%、「業務用」は同100.7%、「学乳」は101.7%。

(3)はっ酵乳(乳業)は88.8千kl(同106.6%)と4カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:9月実績)は100.0%となった。

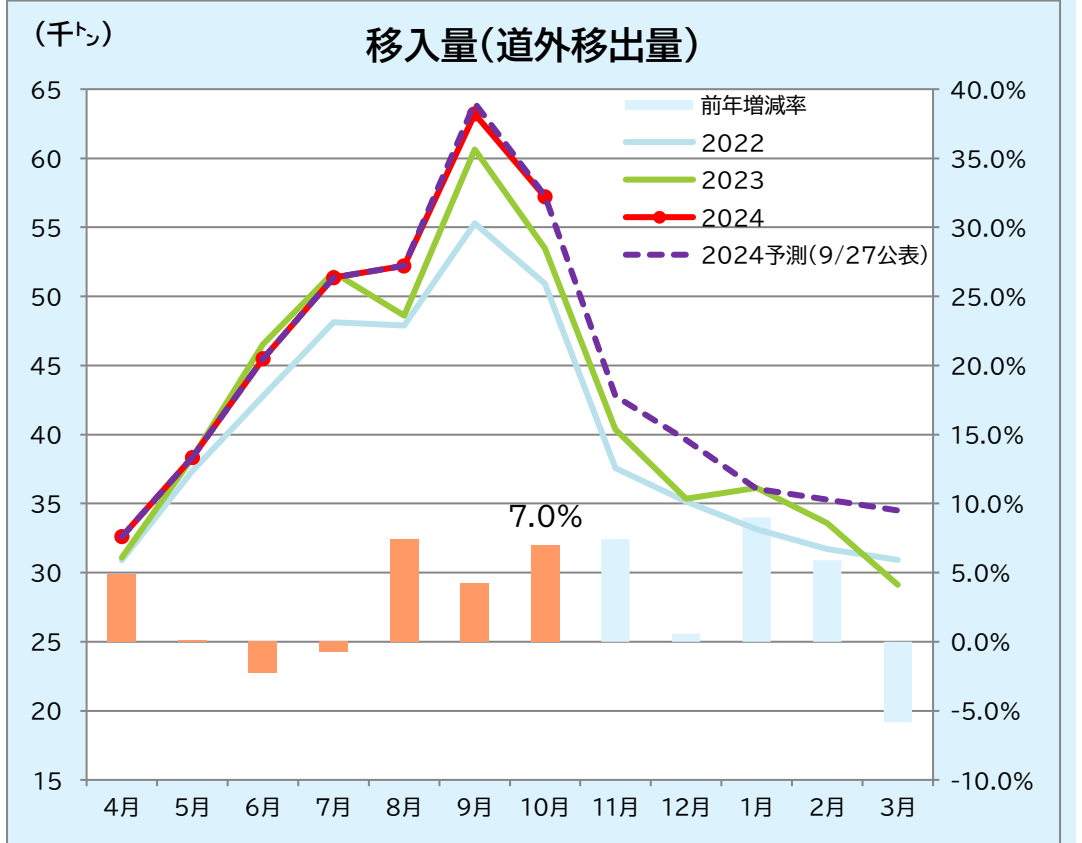
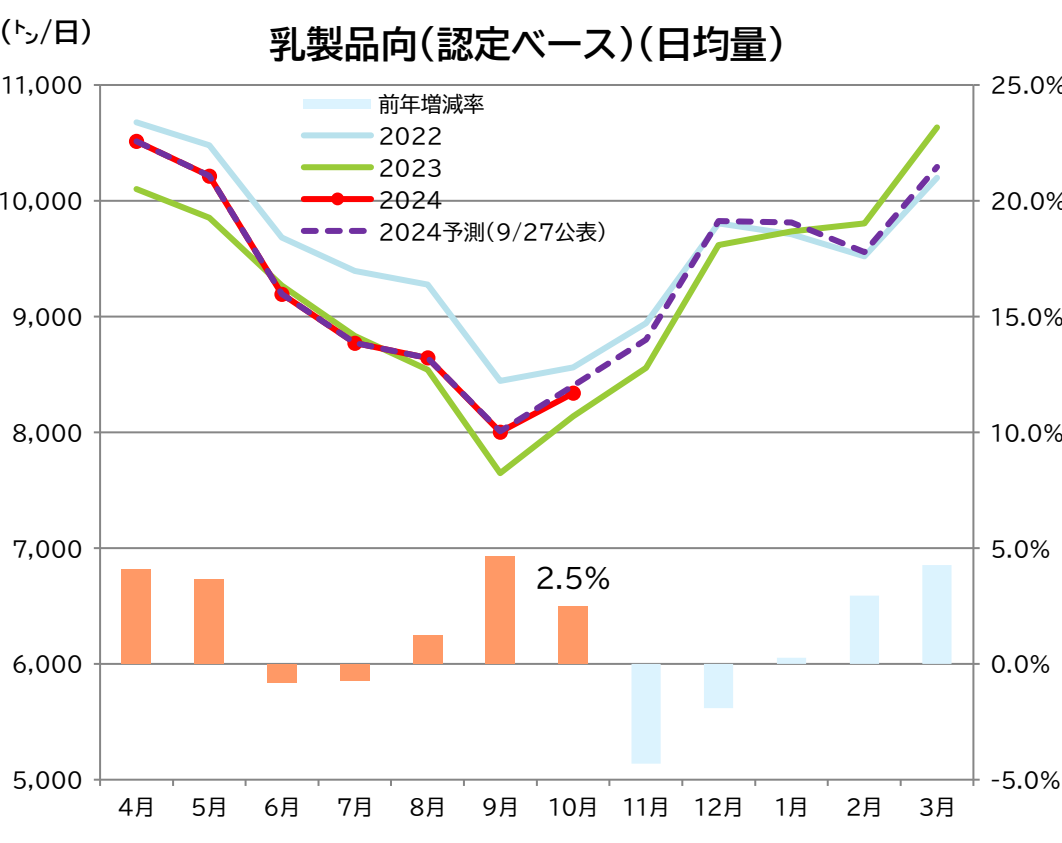
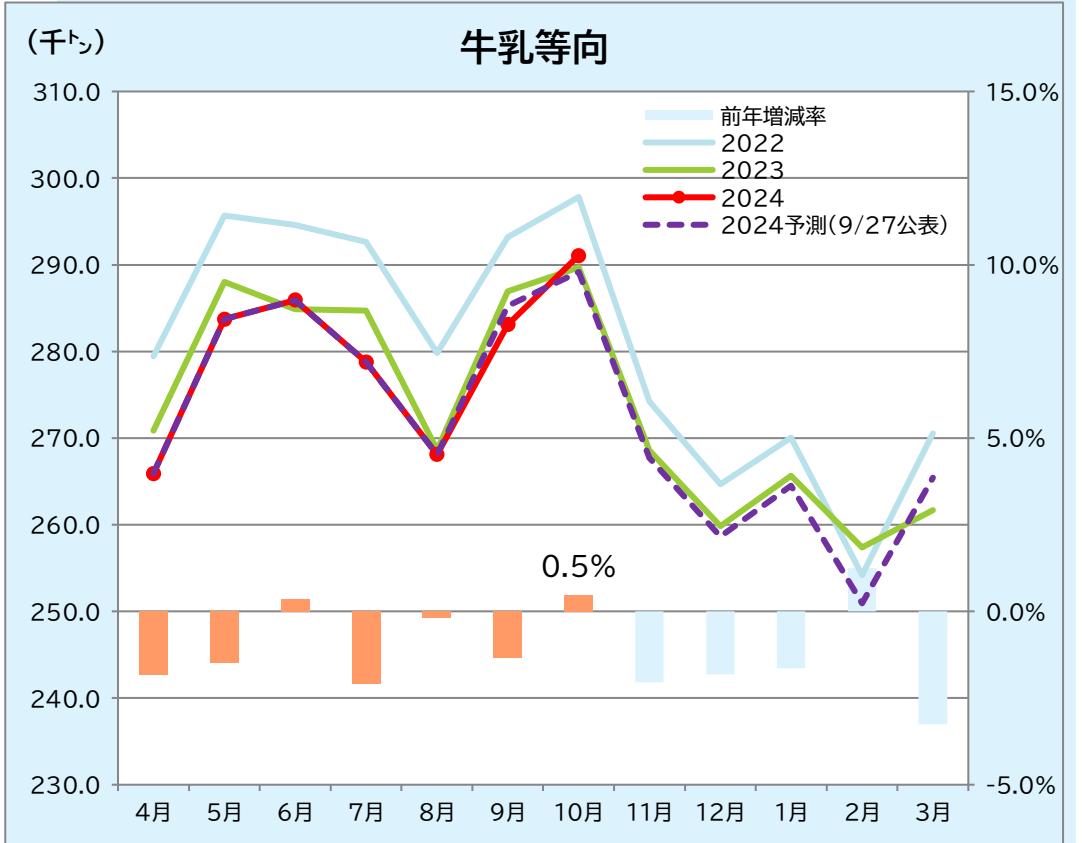
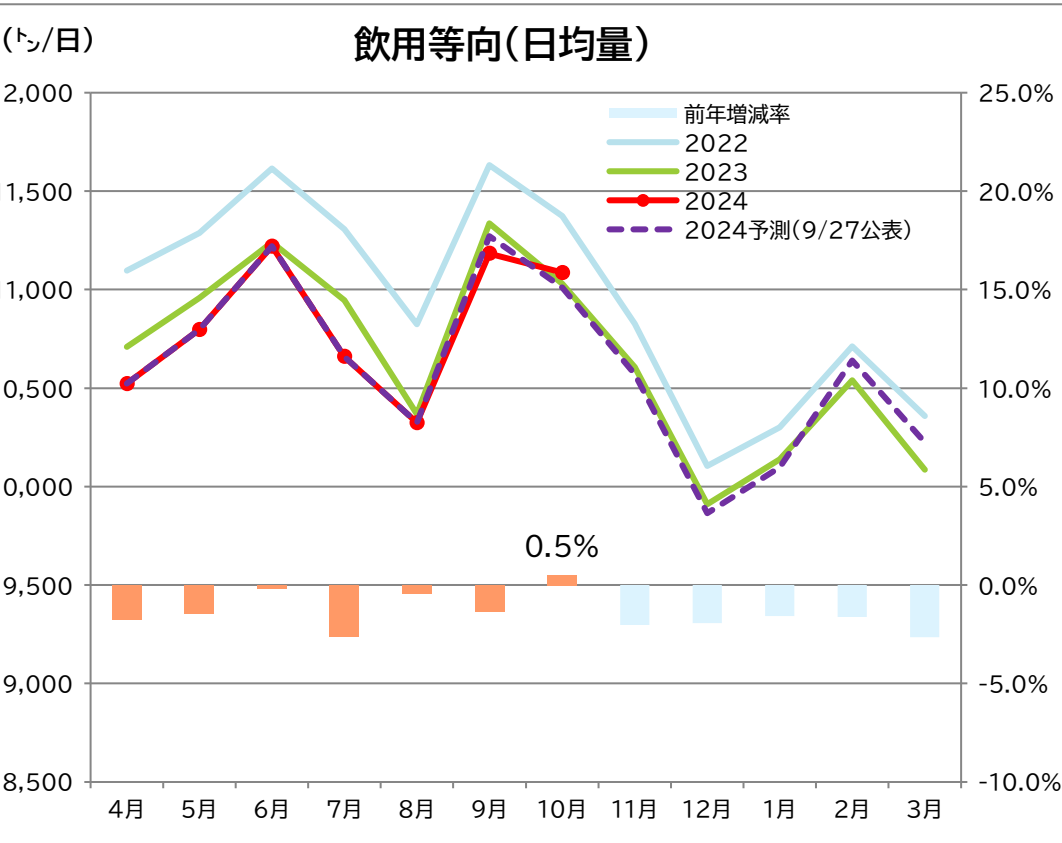
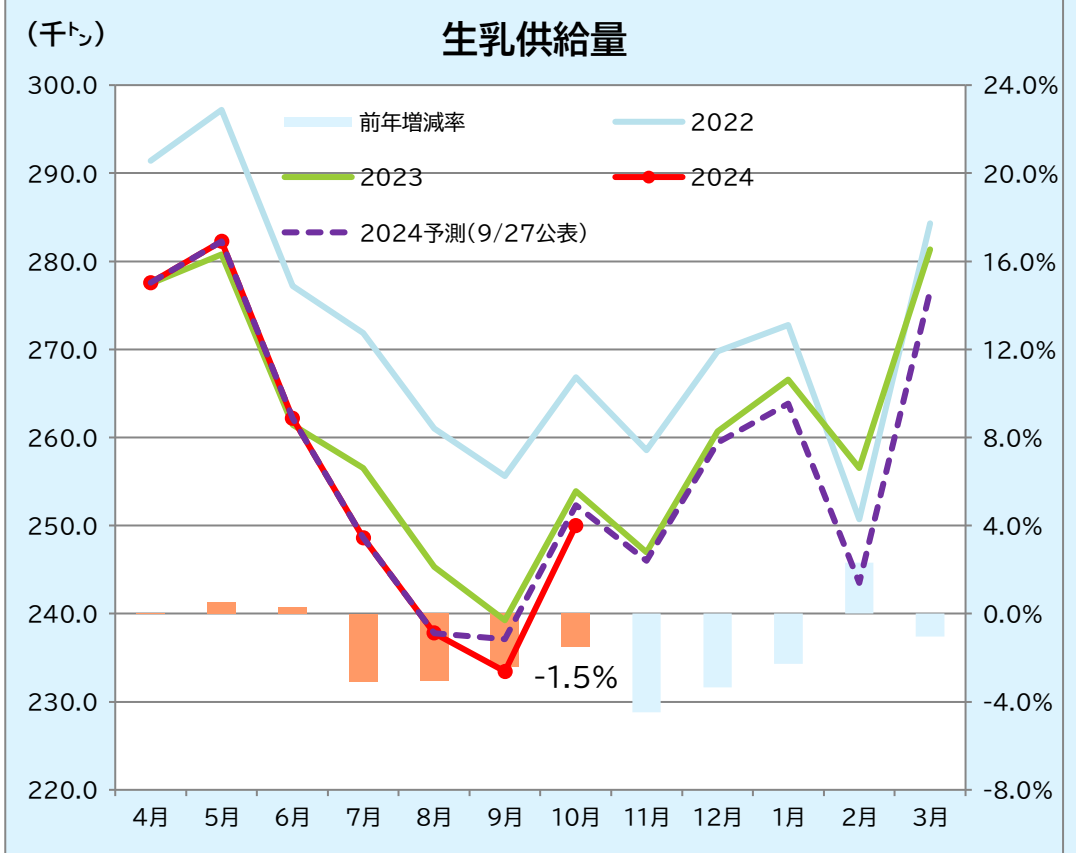
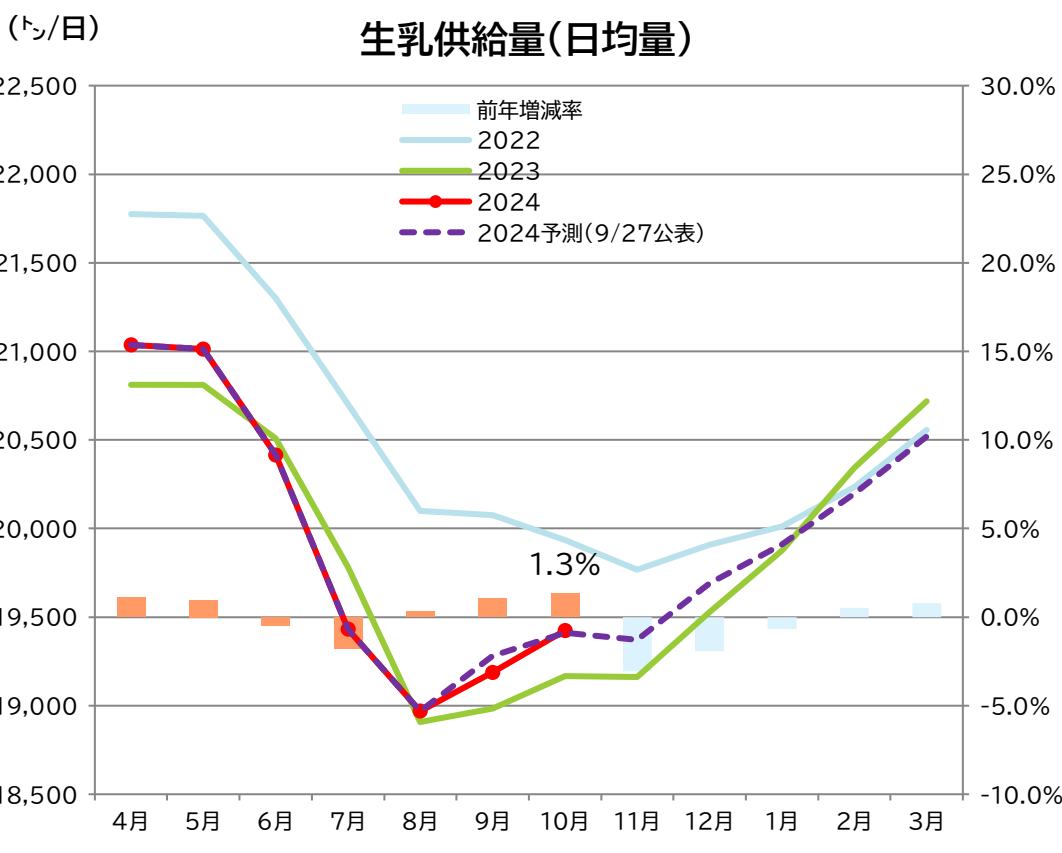


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳供給量は602.2千ト(前年同月比101.3%)、飲用等向343.7千ト(同100.5%)、乳製品向(認定ベース)258.5千ト(同102.5%)。
 (2)飲用等向が8か月ぶりに前年を上回ったが、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も前年を上回った。
 (3)10月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:601.8千ト)は上振れ、飲用等向(予測値:341.4千ト)も上振れし、乳製品向(予測値:260.4千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)10月は、生乳供給量250.0千ト(前年同月比98.5%)、牛乳等向291.1千ト(同100.5%)。
 (2)北海道からの移入量については57.2千ト(同107.0%)と前年を上回った。
 (3)10月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:252.3千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:289.2千ト)は上振れ、移入量(予測値:57.3千ト)はほぼ予測通りとなった。



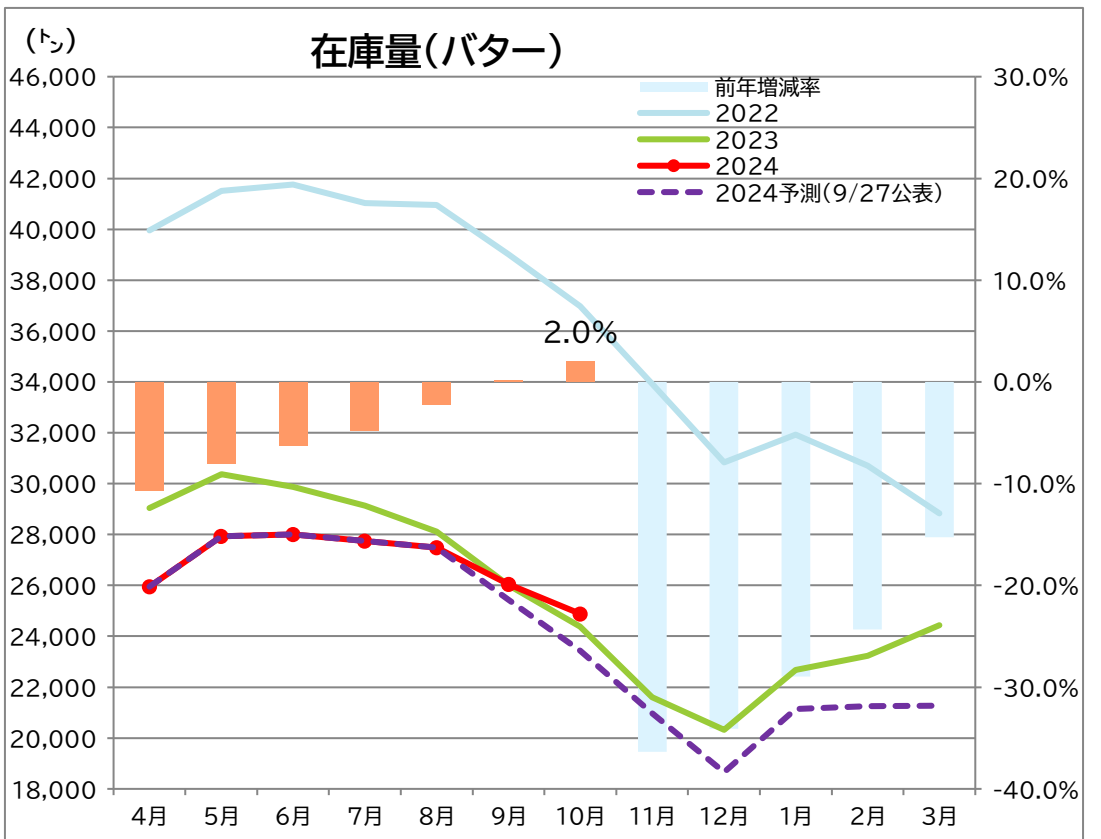
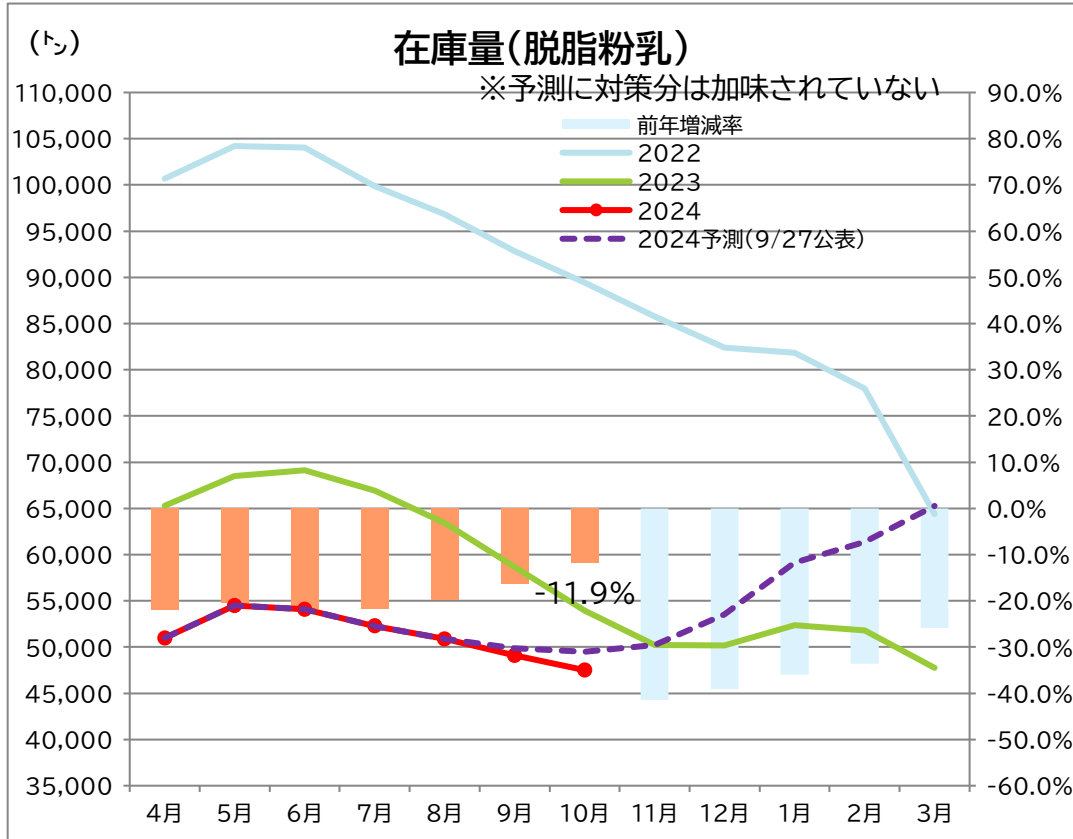
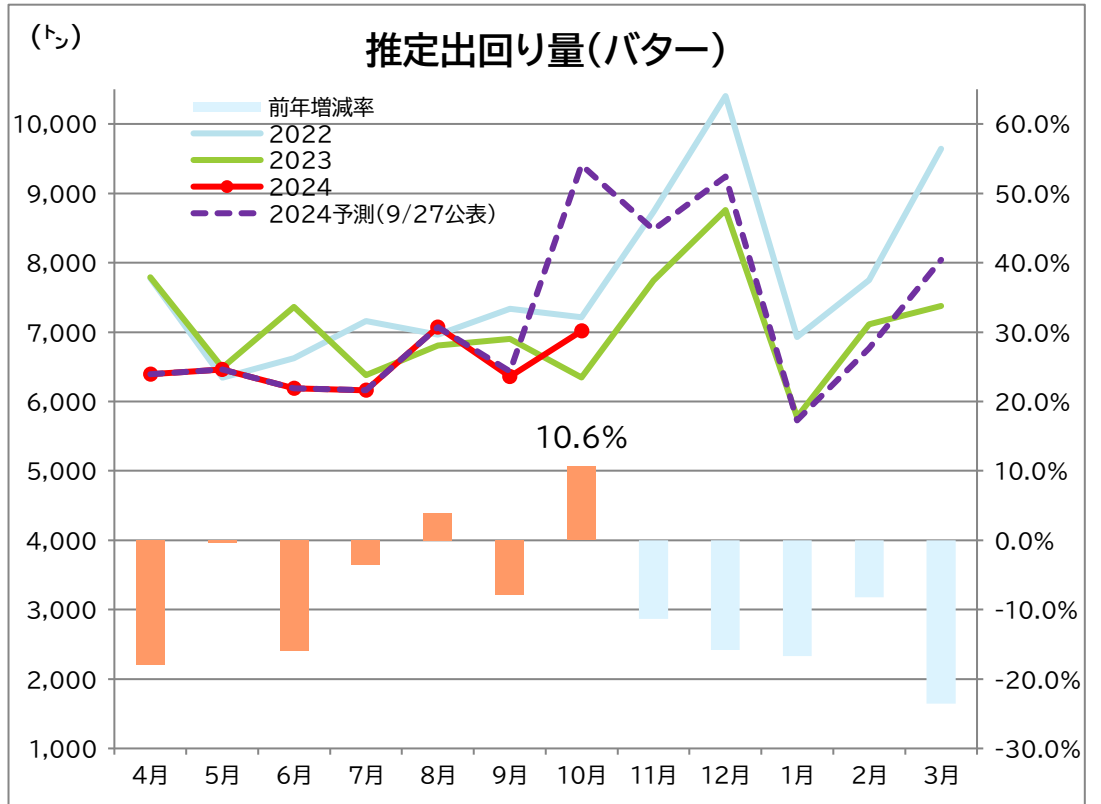
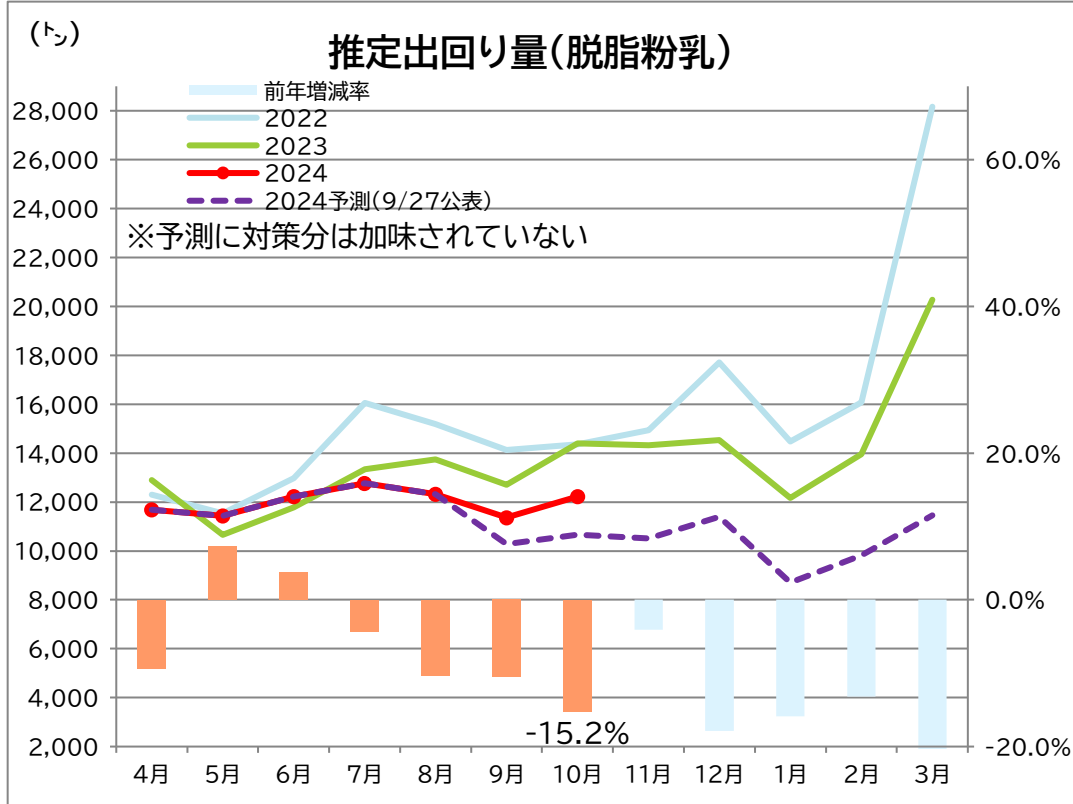
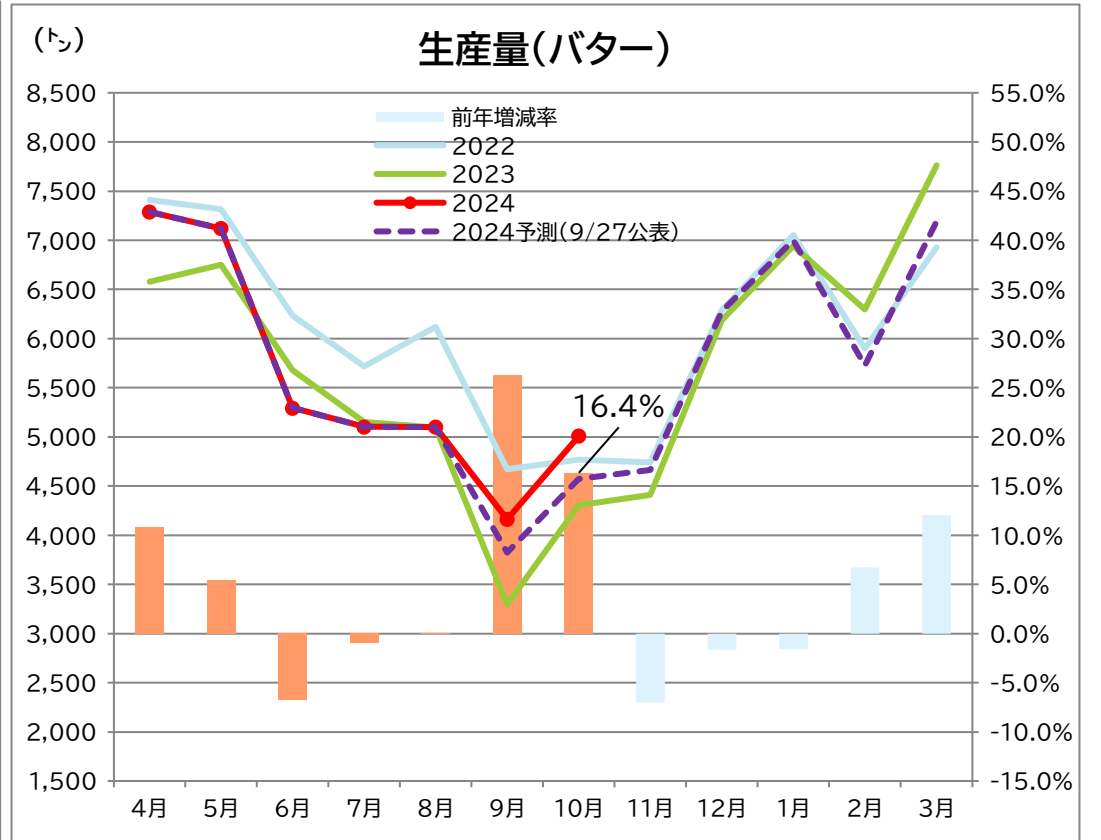
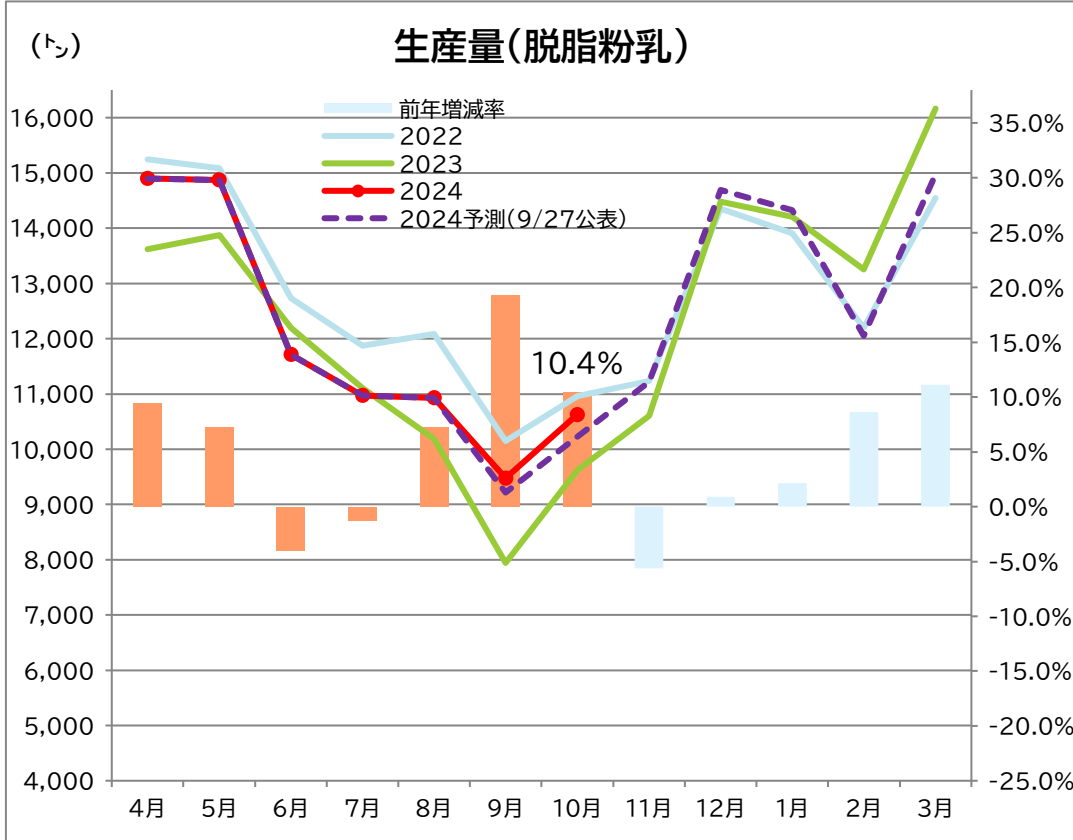
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、10月の生産量は10.6千ト(前年同月110.4%)、推定出回り量は12.2千ト(同84.8%)となった。出回り量が生産量を上回ったため、在庫量は前月から1.5千ト程度減少し、47.5千ト(同88.1%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には約8年振りに4万ト台となっていた。その後、4月に再び5万ト台となったが、9月は5か月ぶりに4万ト台に戻り10月は2か月連続で4万ト台となった。

※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、10月の生産量は5.0千ト(同116.4%)、推定出回り量は7.0千ト(同110.6%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは3か月連続。国家貿易による輸入売渡分(約0.8千ト)も考慮すると在庫量は前月から約1.2千ト減少し24.9千ト(同102.0%)となった。在庫量は2か月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)11月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.5%、成分調整牛乳:同96.0%、加工乳:同100.4%、乳飲料:同92.2%。牛乳類全体:同98.9%

【参考】2022年11月比…牛乳:96.8%、成分調整牛乳:78.4%、加工乳:103.2%、乳飲料:92.4%(牛乳類トータル:94.9%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(10/28週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.0%、成分調整牛乳:同95.6%、加工乳:同98.5%、乳飲料:同88.7%。牛乳類トータルでは同96.3%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

※2024年6月のみ、販売データの対象となる業態についてホームセンターのうちディスカウント型店舗が対象外となっております。

販売本数の前年比は、過去のデータも同じ業態にそろえて比較しております。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

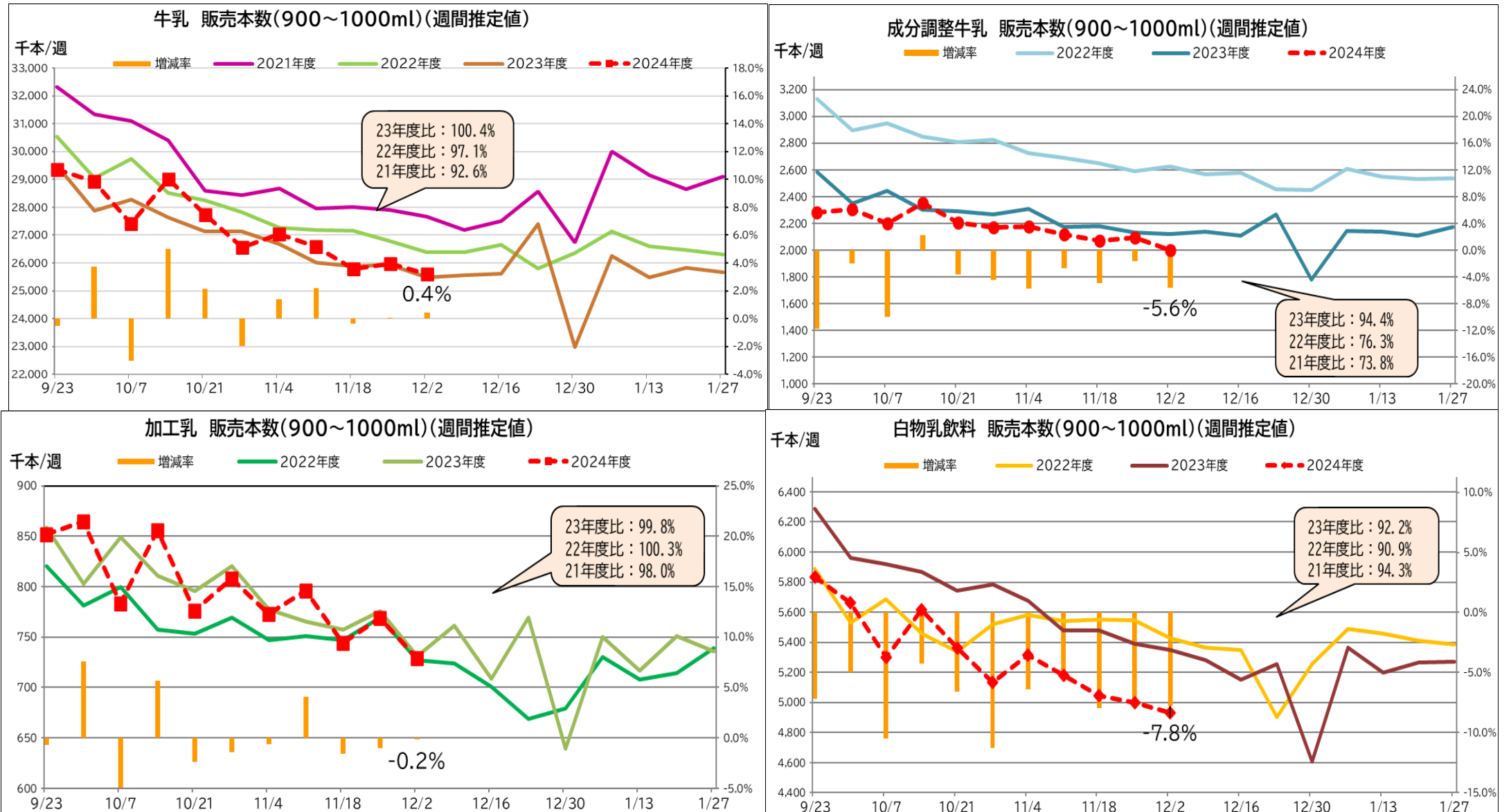
単位:千個、円

品目	区分	2024/6-	2024/7-	2024/8-	2024/9-	2024/10-	2024/11-	2024/11- 2022/10価格差	2024/11- 2023/3価格差	2024/11- 2023/7価格差
		販売個数	162,342	168,873	175,296	165,980	161,140	147,094	32.7	17.6
トータル	販売個数前年比	101.1	95.3	99.1	97.6	98.6	98.9			
	販売単価	215.6	216.0	216.8	216.1	216.0	215.8			
牛乳	販売個数	124,376	129,480	135,341	127,378	123,650	112,767	34.8	18.5	17.7
	販売個数前年比	101.0	95.4	100.7	99.3	100.3	100.5			
成分調整牛乳	販売個数	9,694	10,098	10,338	9,883	9,938	9,065	32.5	16.8	13.3
	販売個数前年比	88.2	84.3	89.9	90.6	95.4	96.0			
加工乳	販売個数	3,616	3,823	3,831	3,646	3,568	3,311	27.0	17.3	6.3
	販売個数前年比	116.4	109.2	107.8	101.5	97.7	100.4			
乳飲料	販売個数	24,655	25,472	25,786	25,073	23,984	21,951	23.2	12.6	8.9
	販売個数前年比	105.5	97.7	94.0	92.0	91.8	92.2			
	販売単価	173.1	173.1	173.3	172.8	173.0	172.7			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	10.14-	10.21-	10.28-	11.4-	11.11-	11.18-	11.25-	12.2-	24.12.2- 22.10.24 価格差	24.12.2- 23.3.20 価格差	24.12.2- 23.7.24 価格差
		販売個数	37,830	36,063	34,673	35,299	34,674	33,653	33,825	33,269	32.8	17.9
トータル	販売個数前年比	103.4	100.3	96.3	99.6	100.7	98.1	98.8	98.7			
	販売単価	215.7	216.1	216.1	215.8	215.6	215.9	215.6	216.0			
牛乳	販売個数	29,011	27,716	26,565	27,040	26,585	25,796	25,966	25,605	34.6	18.3	17.1
	販売個数前年比	105.0	102.1	98.0	101.4	102.2	99.6	100.1	100.4			
成分調整牛乳	販売個数	2,349	2,207	2,168	2,174	2,114	2,068	2,095	2,002	32.4	17.5	12.9
	販売個数前年比	102.2	96.3	95.6	94.3	97.2	95.0	98.4	94.4			
加工乳	販売個数	856	776	808	773	796	744	769	729	29.3	19.0	8.4
	販売個数前年比	105.6	97.6	98.5	99.4	104.1	98.4	99.0	99.8			
乳飲料	販売個数	5,614	5,363	5,132	5,313	5,179	5,044	4,996	4,933	23.7	13.9	9.2
	販売個数前年比	95.7	93.4	88.7	93.6	94.5	92.1	92.7	92.2			
	販売単価	172.6	173.2	172.7	172.7	172.5	172.7	172.6	173.4			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(12/2週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同105%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回る推移となっている。(3品目合計前年同期比100%以上)。

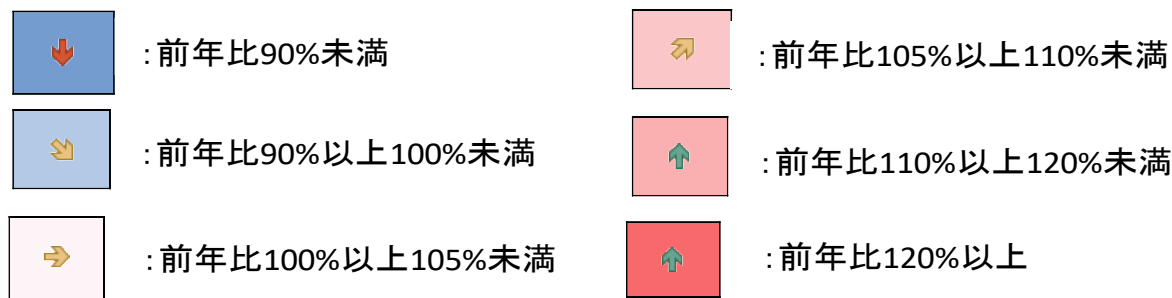
(2)販売個数について、前週(11/25週)との比較では、3品目すべて減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	10.14-	10.21-	10.28-	11.4-	11.11-	11.18-	11.25-	12.2-
ドリンクタイプ	→	→	↘	→	↗	→	→	→
個食タイプ	→	→	↘	→	↗	→	→	→
大容量タイプ	↑	↗	↗	↗	↑	↑	↑	↗



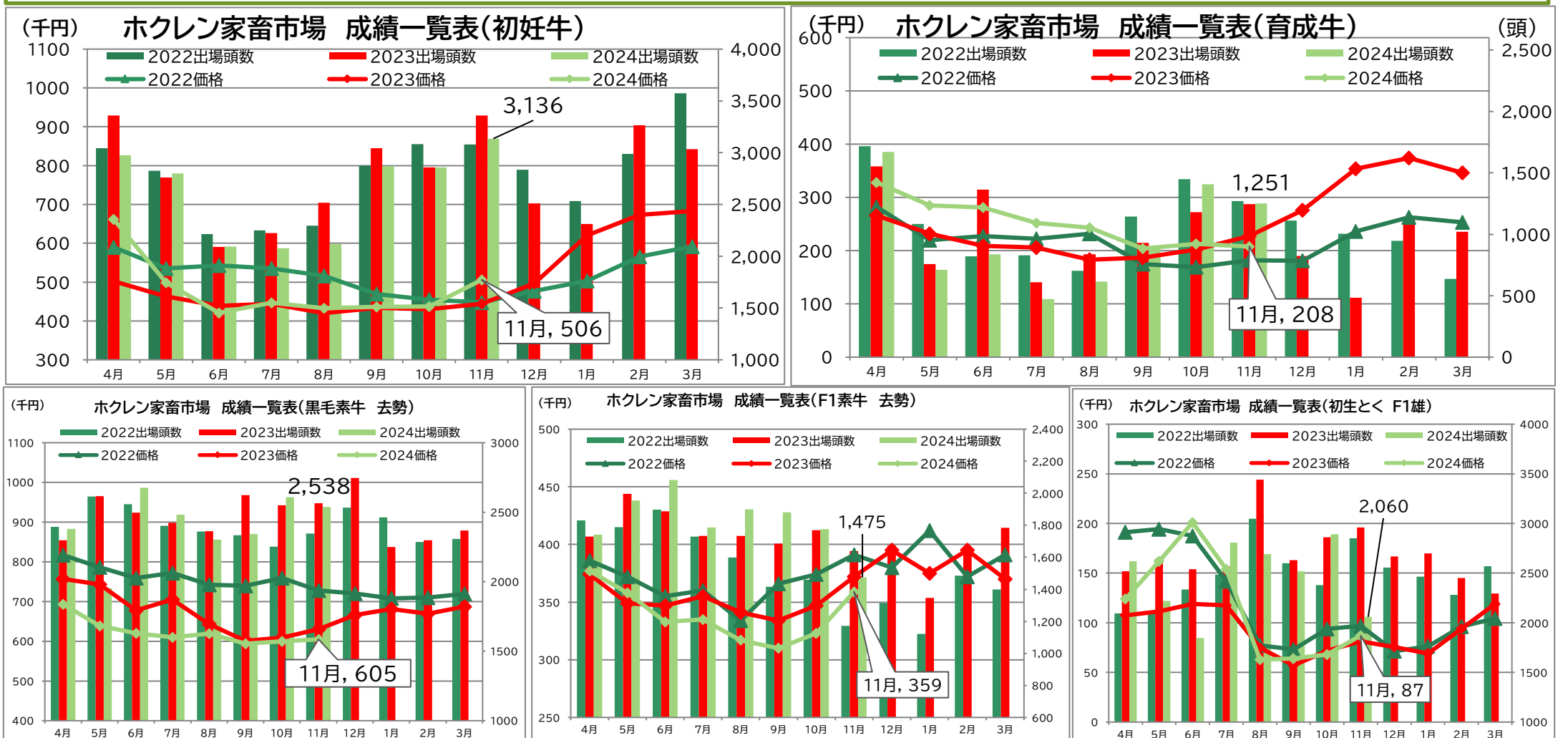
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)11月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は506千円(前年同期比114.0%)、育成牛価格は208千円(同91.6%)、和牛素牛(去勢)価格605千円(同96.0%)、F1素牛(去勢)価格は359千円(同96.5%)。初妊牛は7カ月ぶりに50万円以上となり、育成牛は7カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は18千円(同33.1%)と、4カ月連続で20千円を下回った(グラフ無し)。

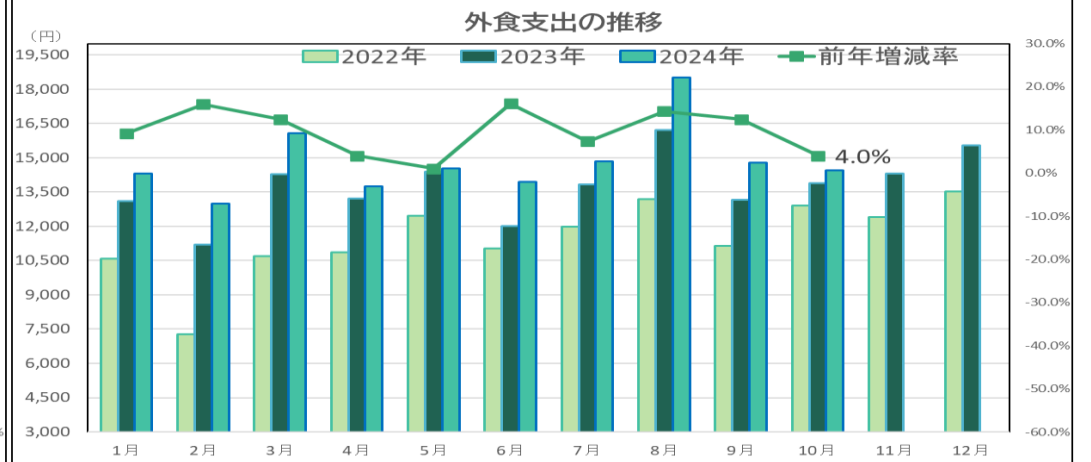
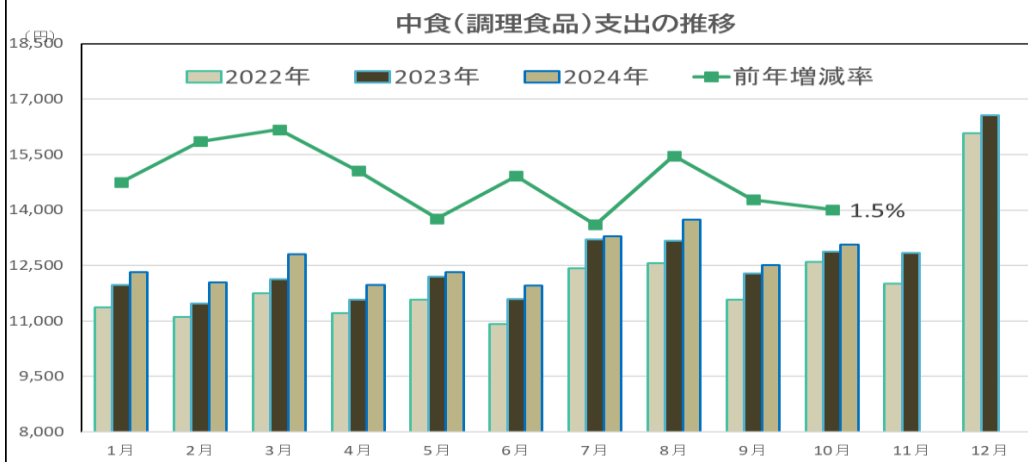
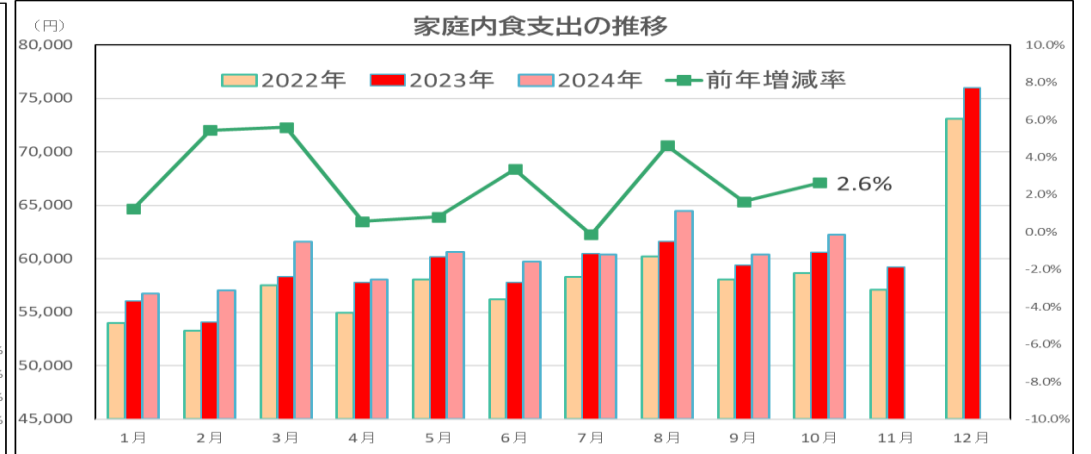
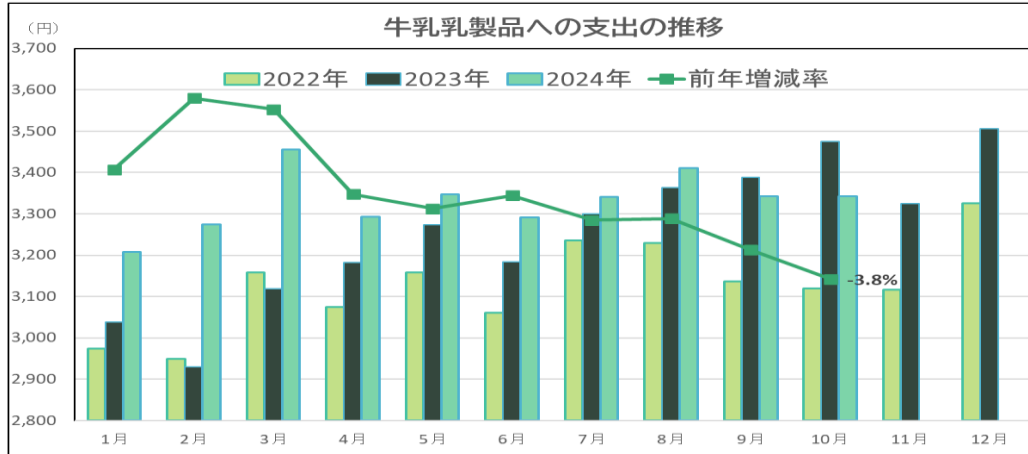
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同93.4%、育成牛:同100.4%、F1初生(雄):同69.6%、和牛素牛(去勢):同98.9%、F1素牛(去勢):同90.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

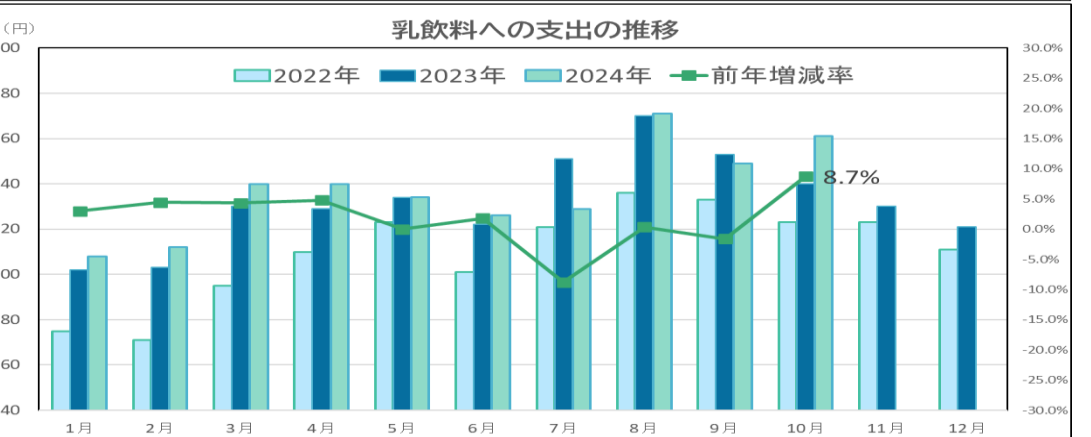
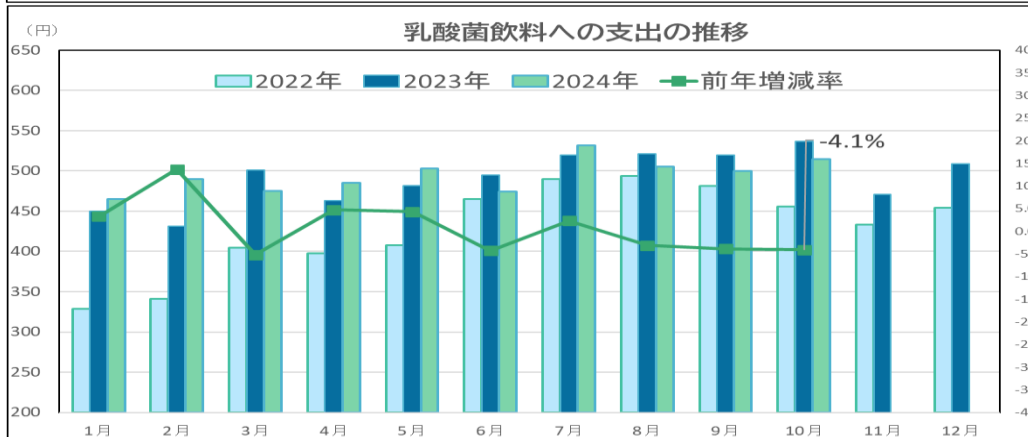
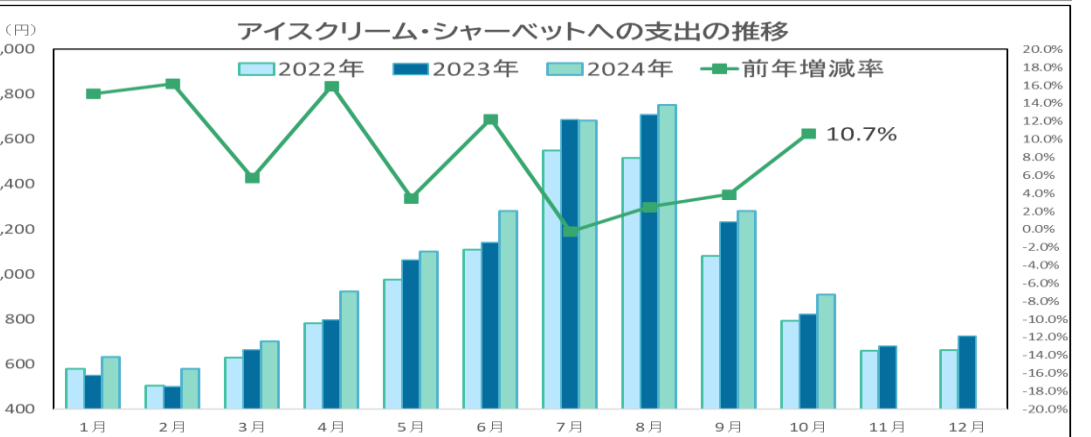
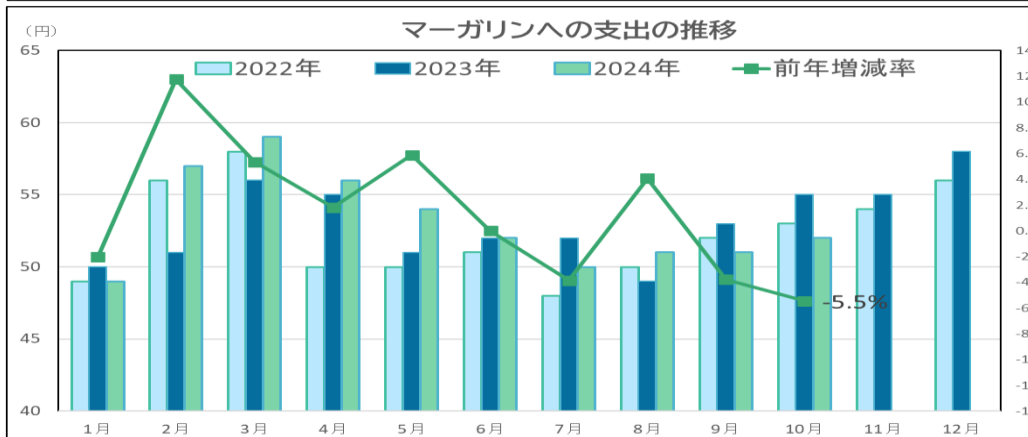
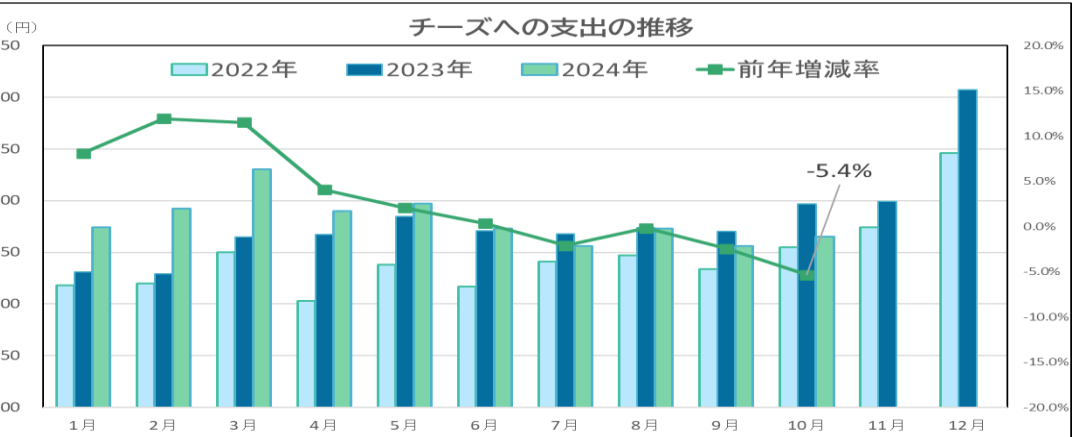
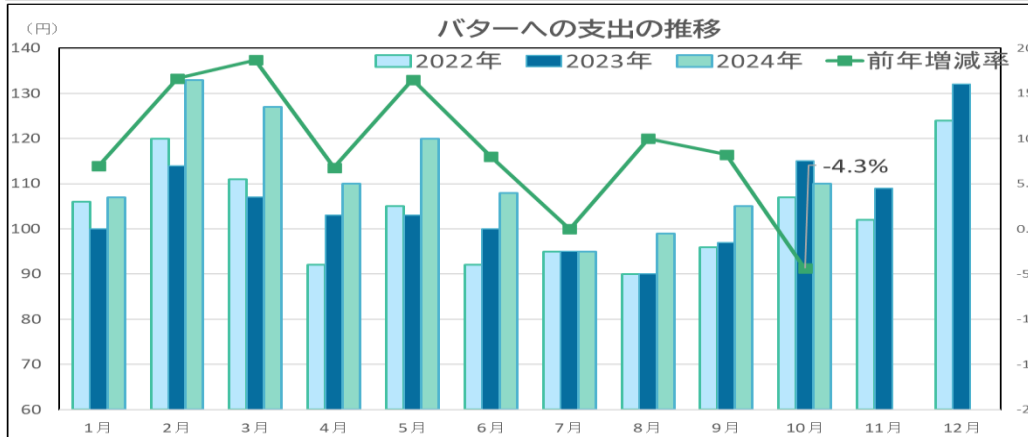
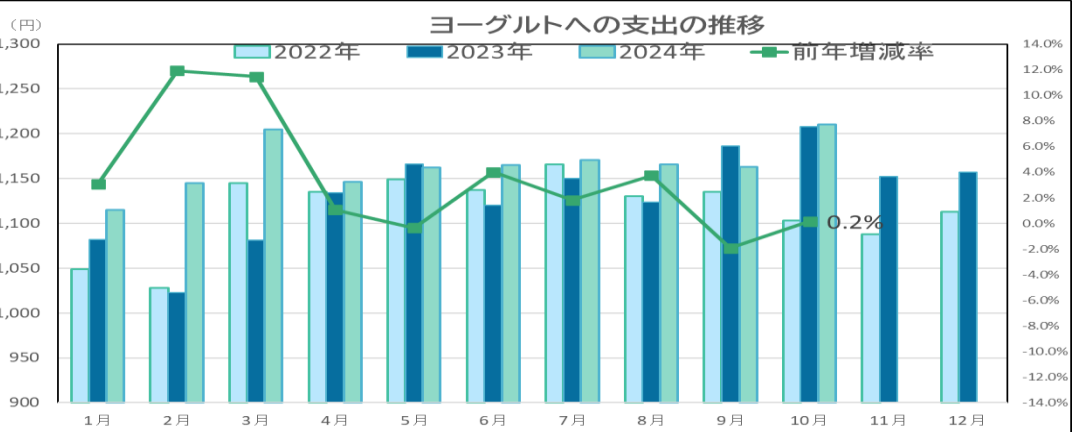
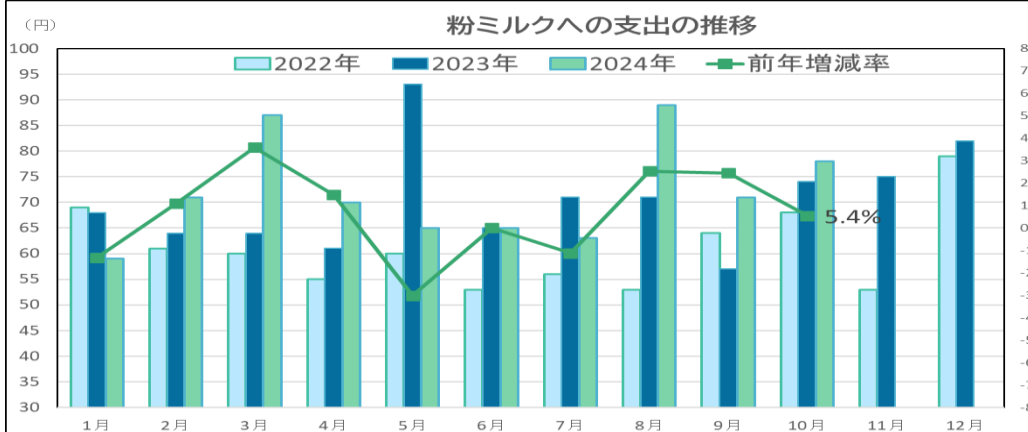


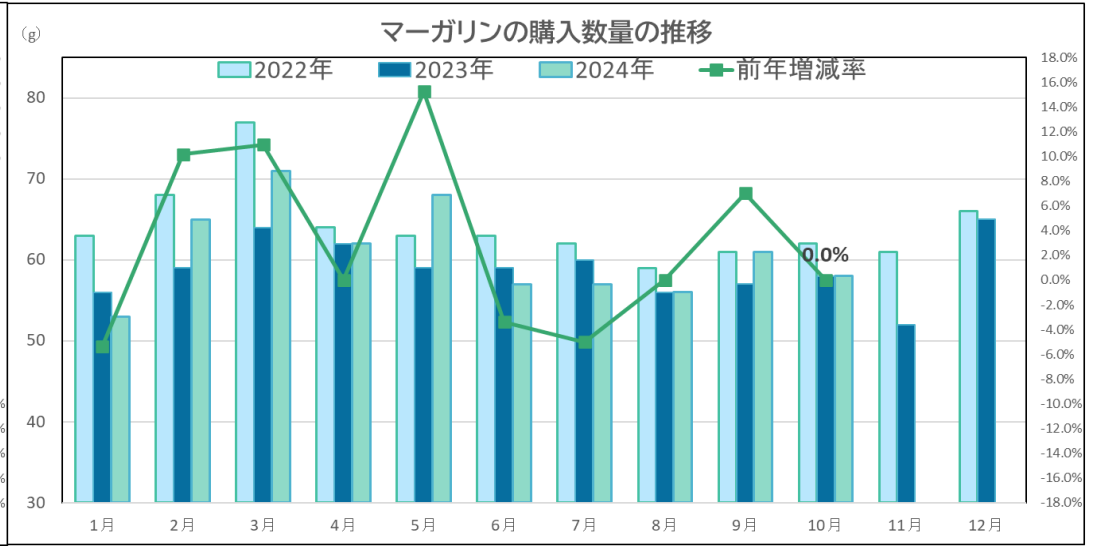
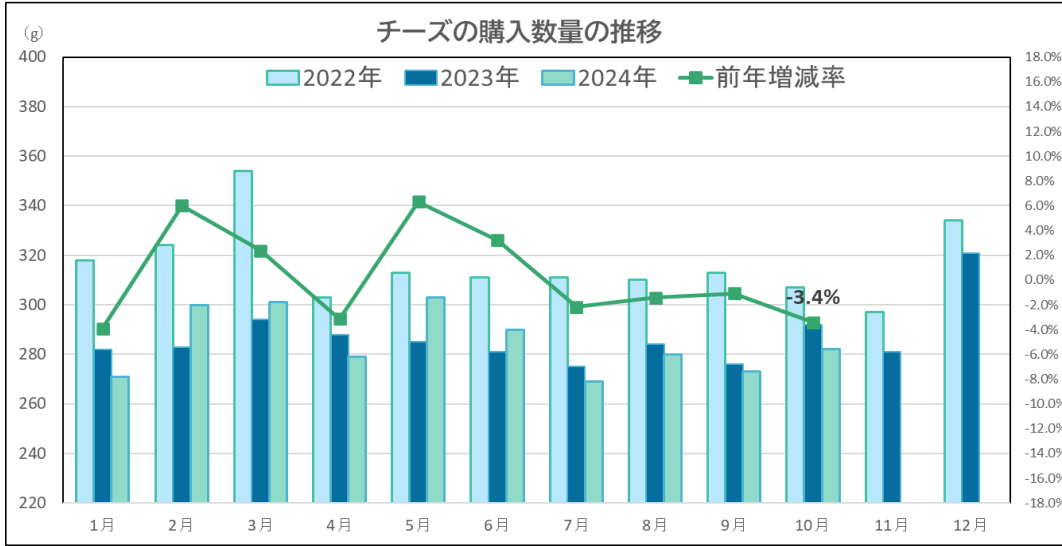
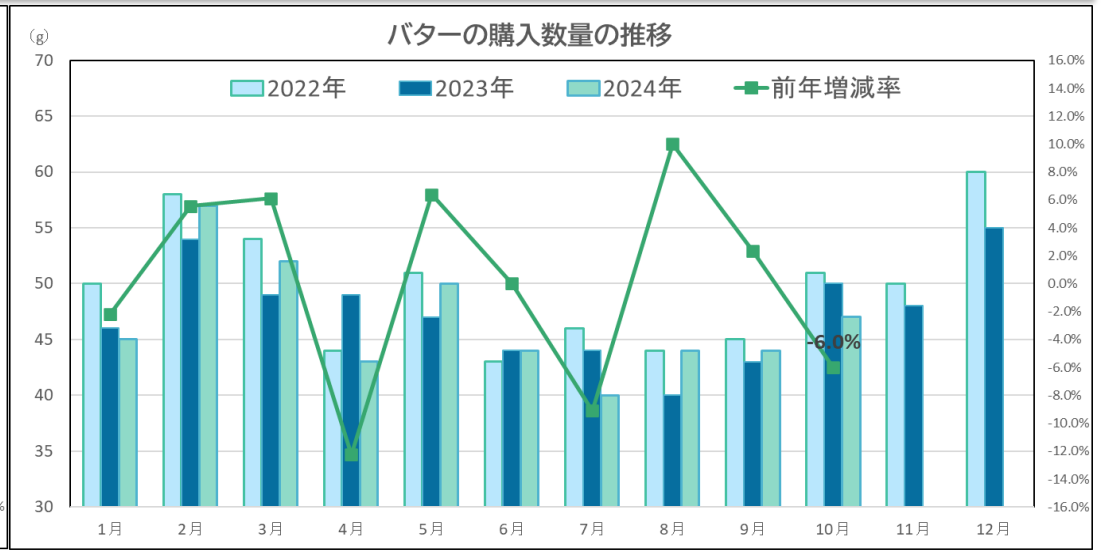
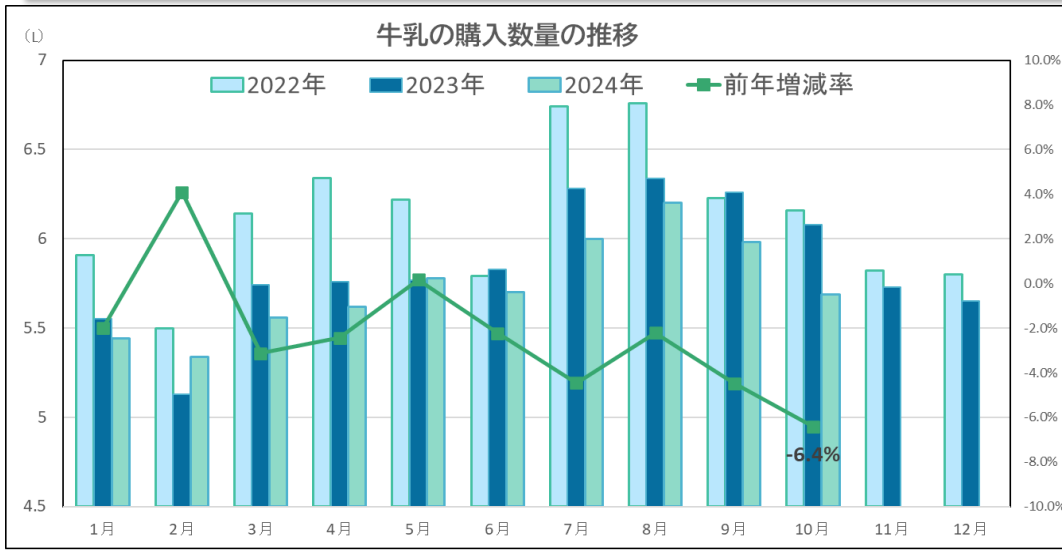
【家計支出の動向】

- (1)10月の支出額前年比について、外食104.0%、中食101.5%、内食102.6%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は102.7%となった。
 - (2)牛乳乳製品の支出額も前年比98.5%(うち牛乳92.8%、乳製品99.5%)と2カ月連続で前年を下回った。
 - (3)なお、購入量は、牛乳93.6%(1世帯当たり5.7L)と5カ月連続で前年割れ。チーズは4カ月連続、バターは3カ月ぶりに前年割れとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



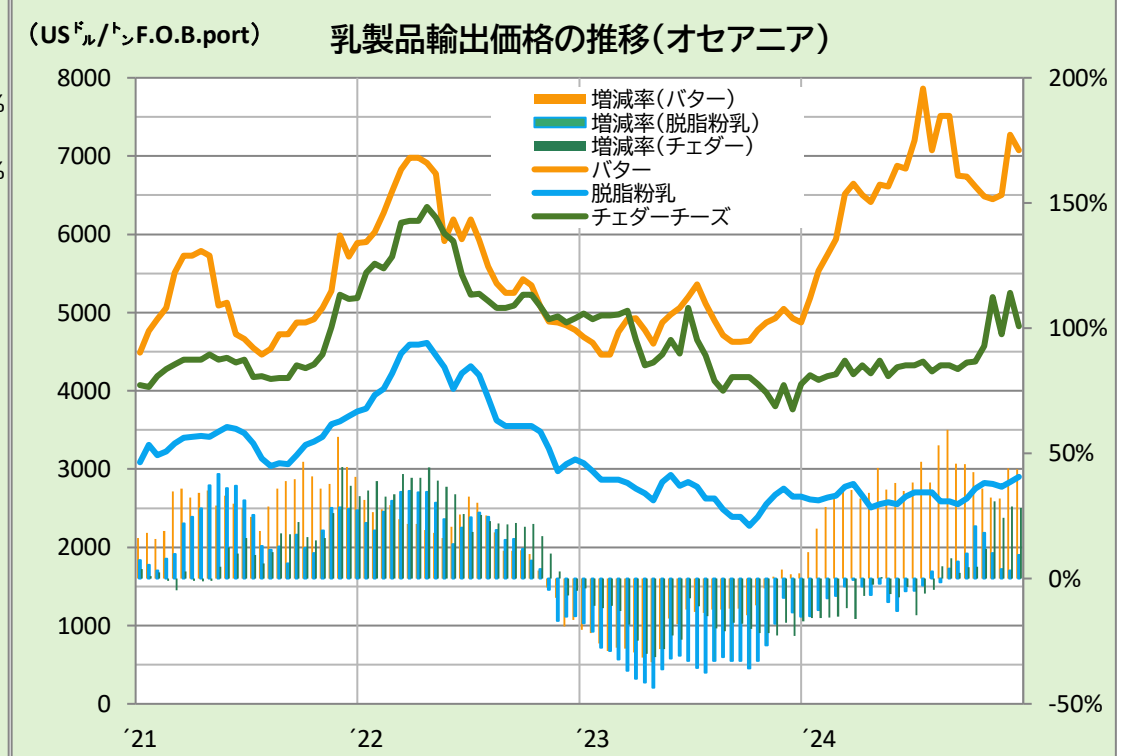
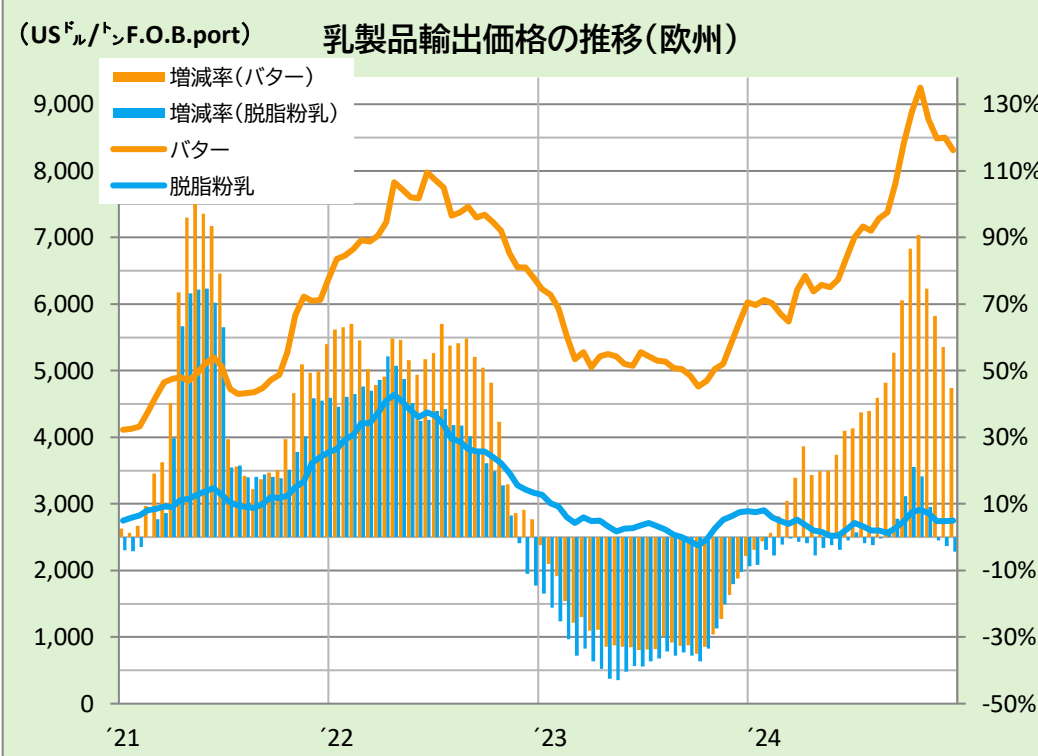


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(11月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター8,313ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,900ドル/ト、バター7,075ドル/ト、チェダーチーズは4,825ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」